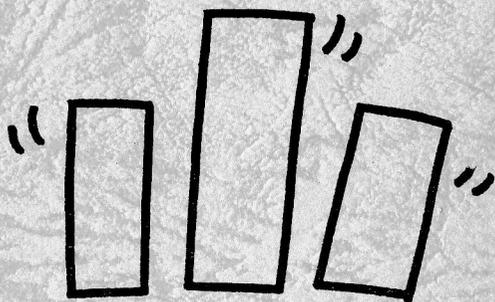
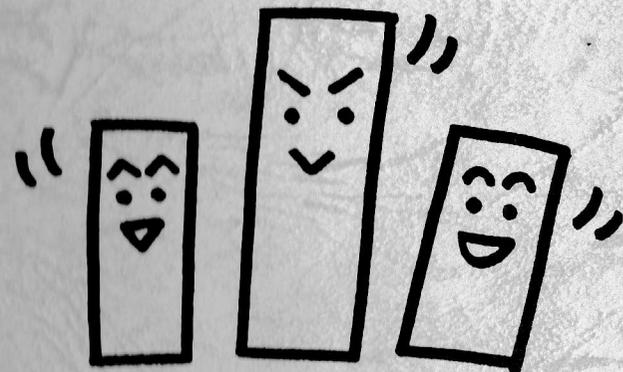


# People 1999

入間市  
生涯学習をすすめる  
市民の会 会報



ENJOY LIFE FOREVER !



## 目次

	1999年度事業報告		1
	1999年度決算報告		7
寄稿	宮岡正美	市民参加が問われる時代 介護保険とNPO	8
	宮岡幸江	デンマークの「生のための学校」	9
委員報告	庄 菊博	生涯学習と中学のクラブ活動	11
	山本和人	教育・学習のイメージと生涯学習	19
	三浦はるみ	さいたま・子どもフォーラム	24
	清水 薫	加治丘陵「春のさとやま探検隊」報告	25
	秋葉英夫	市民の会会員になって 一年を振り返って	29
	柳橋吉教	ギターと私	31
	室山茂子	つれづれ4編	33
	松崎仁子	ボランティアコーディネーター資質向上セミナーに参加して	35
事務局報告	今井文香	学習相談・情報提供専門講座に参加して	37
	諸井和男	「生涯学習」との出会い	43
	山増智子	「いるま学びの場」の誕生に立ち会って	44
	1999年度事業参考資料		45
	生涯学習情報紙 かがやく 縮刷版		46
	生涯学習フェスティバル資料		54
	参加団体一覧		56
	ミニ講演会概要『地球にやさしい暮らしをするために』		57
	『全ての人が心豊かで元気であるために』		59
	公開ディスカッション概要『子どもの居場所を考える』		62
	『あなたが住みたい夢のまち』		63
	2000年度事業計画		70
	2000年度委員名簿		71

## 1999年度事業報告

### 1. 生涯学習情報紙「かがやく」の企画・編集

第9号「生涯学習サークル」 10月発行

第8号「続・生涯学習サークル」 3月発行

委員以外のボランティアスタッフも関わり、多くの市民を巻き込む。紙面も学習成果の発表の場と考え、「生涯学習ギャラリー」コーナーで市民の作品を紹介。また、市内で活動しているサークルや生涯学習施設について、公共・民間を問わず広く紹介した。

### 2. 第5回いるま生涯学習フェスティバルの開催

期 日 平成11年12月5日

会 場 入間市産業文化センター他

テーマ 「協働」

市民・行政・企業等がそれぞれの特色を生かしながら、ともにまちづくり・人づくりをすることを意図した。

内 容 「協働」リレースピーチ・「協働」実践団体展示

ミニ講演会、公開ディスカッション、トリオリエンテリング

生涯学習サークルによる展示・実演・ステージイベント等

※参加者数のべ6000人。生涯学習サークルをはじめ、企業・大学も多数参加し、多くのボランティアスタッフにより運営を行った。

### 3. 「いるま学びの場 平成11年度入間市生涯学習サークル・教室一覧」発行

第5回いるま生涯学習フェスティバル開催に合わせ3000部発行。

生涯学習関係課職員とともに入間市生涯学習情報収集・公開システム

検討委員会を組織し、企画・編集を行った。

主に文化・芸術分野のサークル・教室情報を約1000件掲載。

公民館で活動しているサークルと民間のサークル・教室の情報を広く掲載。

民間情報は、多くの市民の協力により収集した。

### 4. FM番組制作に参加・協力

番組「サンデーアラカルト」で、生涯学習情報の提供やサークル取材同行・番組参加などを行う。

### 5. 行政との話し合い

生涯学習推進会議・庁内連絡会議・公民館職員部会との意見交換会を行う。

### 6. 市民の会の整備・充実

会報の発行

研 修・ボランティアコーディネーター資質向上セミナー

・市民セミナー（扇町屋公民館）

・彩の国 国際フォーラム

### 7. 後援・協力事業

市民が主体となってすすめる生涯学習事業に積極的に応援した。

## 入間市生涯学習推進計画 7項目の施策による事業分類

### 1. 生涯にわたる学習機会の充実

情報収集

### 2. 学習情報の提供と相談体制の整備

冊子「いるま学びの場」発行

生涯学習情報紙「かがやく」による情報提供

FMいるま番組での情報提供

講師情報・イベント情報の提供

コーディネート事業

### 3. 指導者、ボランティアの養成と活用

生涯学習フェスティバルの開催

生涯学習情報紙「かがやく」

### 4. 学習成果の評価と活用

生涯学習フェスティバルの開催

生涯学習情報紙「かがやく」

### 5. 生涯学習関連施設の整備・充実

公民館職員部会との話し合い

### 6. 推進体制の整備・充実

生涯学習推進組織との話し合い

市民の会の整備・充実

### 7. 大学、企業、民間、団体との連携

生涯学習フェスティバルの開催

生涯学習情報紙「かがやく」

- 4月14日(水) 会報編集作業(山尾)  
 4月19日(月) 市民の会役員会(松永、山尾、長谷川)  
 4月20日(火) 4月定例会(秋葉、岩崎、栗原、下野、杉山、曾根、高木、田中、塚田、並本、西久保、長谷川、増岡、松崎、松永、三浦、宮内、室山、森田、柳橋、山尾)  
 4月29日(土) リサイクルプラザ見学会(森田、杉山、山尾)〔清水〕  
 5月11日(水) 5月定例会(岩崎、下野、杉山、曾根、高木、田中、塚田、長谷川、松崎、松永、丸山、宮内、森田、柳橋、山尾)  
 5月20日(木) 市民の会幹事会(松永、山尾、長谷川、杉山)  
 5月20日(木) コンピュータ勉強会(山尾、柳橋、曾根、森田、宮内、秋葉)  
 5月21日(金) 「かがやく」スタッフ会議 ①(高木、長谷川、松崎)(山尾)〔新宅、永石、渡部〕  
 5月28日(金) 「かがやく」スタッフ会議 ②(高木、松崎、長谷川)(山尾)〔池田、新宅、永石、宮岡、渡部〕  
 5月31日(月) 情報収集スタッフ会議(山尾、秋葉、森田、曾根、宮内、室山)  
 6月4日(金) 「かがやく」スタッフ会議 ③(松崎、長谷川)(山尾)〔池田、新宅、永石、渡部〕  
 6月7日(月) 情報収集スタッフ会議(山尾、秋葉、曾根、森田、柳橋)  
 6月8日(火) フェスティバル実行委員会 ①(秋葉、杉山、曾根、田中、丸山、三浦)  
 6月11日(金) 市民の会アルバイト員との面談(山尾)  
 6月11日(金) 「かがやく」スタッフ会議 ④(松崎、長谷川)(山尾)〔池田、新宅、永石、渡部〕  
 6月15日(火) フェスティバル役員会(秋葉、山尾)  
 6月15日(火) 6月定例会(秋葉、岩崎、栗原、下野、杉山、曾根、高木、田中、長谷川、松永、松崎、丸山、三浦、森田、山尾、柳橋)  
 6月18日(金) 「かがやく」スタッフ会議 ⑤(松崎、高木、長谷川)(山尾)〔池田、新宅、永石、渡部〕  
 6月22日(火) 情報収集スタッフ会議(山尾、秋葉、曾根、室山、森田、宮内)  
 6月24日(木) フェスティバル実行委員会 ②  
 6月25日(金) 「かがやく」スタッフ会議 ⑥  
 6月29日(火) フェスティバル役員会(秋葉、山尾)(宮岡)  
 6月30日(水) 情報収集依頼文等送付(山尾)  
 7月2日(金) 「かがやく」スタッフ会議 ⑦  
 7月8日(木) フェスティバル実行委員会 ③(秋葉、岩崎、田中、塚田、丸山、三浦、山尾)  
 7月9日(金) 「かがやく」スタッフ会議 ⑧  
 7月11日(日) 繊維工業試験場跡地利用計画説明会(岩崎)  
 7月13日(火) 7月定例会(秋葉、岩崎、栗原、下野、杉山、鈴木、曾根、田中、長谷川、増岡、松永、室山、森田、柳橋、山尾)

- 7月15日(木) フェスティバル実行委員会 ④(秋葉、岩崎、杉山、曾根、田中、丸山、三浦、山尾)  
 7月17日(土) 普及・奨励スタッフ会議(鈴木、杉山、田中、増岡、山尾)  
 7月24日(土) 暑気払(秋葉、栗原、曾根、松永、三浦、室山、森田、山尾)  
 7月30日(金) 「かがやく」スタッフ会議 ⑨(石川)  
 8月4日(水) 公民館職員部会との打合せ(山尾、長谷川)  
 8月5日(木) フェスティバル実行委員会 ⑤(秋葉、岩崎、杉山、田中、塚田)  
 8月6日(金) 「かがやく」スタッフ会議 ⑩  
 8月13日(金) 「かがやく」スタッフ会議 ⑪  
 8月18日(水) 公民館職員部会との意見交換(秋葉、下野、長谷川、松崎、山尾、柳橋)  
 8月19日(木) 推進会議との意見交換(松永、下野、山尾、秋葉、岩崎、栗原、杉山、曾根、田中、高木、長谷川、宮内、松崎、室山)  
 8月20日(金) 「かがやく」スタッフ会議 ⑫  
 8月21日(土) FM番組制作会議(鈴木、田中、杉山、秋葉、増岡、長谷川、山尾)  
 8月24日(火) 8月定例会(秋葉、杉山、曾根、高木、田中、長谷川、増岡、室山、柳橋、山尾)  
 8月27日(金) 「かがやく」スタッフ会議 ⑬  
 8月27日(金) フェスティバル実行委員会 ⑥(秋葉、岩崎、杉山、田中、高木、丸山)  
 8月31日(火) 情報収集スタッフ会議(山尾、秋葉、曾根、室山、森田)  
 9月3日(金) 「かがやく」スタッフ会議 ⑭  
 9月7日(火) フェスティバル PR・広報部会  
 9月8日(水) フェスティバル ホール部会  
 9月10日(金) 「かがやく」スタッフ会議 ①  
 9月10日(金) フェスティバル 展示・実演部会  
 9月14日(火) フェスティバル 講演会・ディスク部会  
 9月16日(木) フェスティバル実行委員会 ⑦(秋葉、岩崎、杉山、田中、丸山、三浦、山尾)  
 9月17日(金) 「かがやく」スタッフ会議 ②  
 9月20日(月) 「かがやく」スタッフ会議 ②  
 9月21日(火) 9月定例会(秋葉、岩崎、下野、杉山、曾根、高木、田中、塚田、長谷川、増岡、松崎、松永、丸山、三浦、室山、森田、柳橋、山尾)  
 9月22日(水) フェスティバル フラダンス説明会(山尾)  
 9月24日(金) 「かがやく」スタッフ会議 ③  
 9月26日(土) FM番組制作部会(杉山、鈴木、塚田、増岡、山尾)  
 9月28日(火) フェスティバル 展示・実演部会  
 9月29日(水) ①情報収集部会(山尾、柳橋、室山、曾根、秋葉) 1:00~4:00 ② " (田雑、中野)  
 10月1日(金) フェスティバル PR・広報部会  
 10月2日(土) FM番組制作(柳橋、田中、杉山、秋葉、塚田、長谷川、山尾)  
 10月4日(月) 「かがやく」スタッフ会議 ④  
 10月5日(火) 情報収集部会

10月10日(日) FM番組出演 (長谷川)  
 10月12日(火) 役員会  
 10月12日(火) 情報収集部会  
 10月12日(火) フェスティバル実行委員会 ⑧  
 (秋葉、岩崎、杉山、田中、塚田、丸山、山尾)  
 10月14日(木) 市民の会役員会 (松永、山尾、岩崎、柳橋、杉山)  
 10月15日(金) 会計処理 (杉山、岩崎)  
 10月16日(土) 扇町屋公民館市民セミナー (杉山、下野、室山、森田、田中、山尾)  
 10月17日(日) FM番組出演 (山尾)  
 10月18日(月) 「かがやく」スタッフ会議 ⑤  
 10月19日(火) 10月定例会 (秋葉、下野、杉山、曾根、田中、松崎、松永、森田、柳橋、山尾)  
 10月20日(水) 情報収集部会  
 10月21日(木) フェスティバル PR・広報部会  
 10月22日(金) 市民の会役員会  
 10月22日(金) フェスティバル ディスカッション・ミニ講演会部会  
 10月27日(水) フェスティバル 展示・実演部会  
 11月1日(月) 情報収集部会  
 11月5日(金) 「かがやく」スタッフ会議 ⑥  
 11月9日(火) フェスティバル ホール部会  
 11月10日(水) フェスティバル 役員会と作業  
 11月11日(木) フェスティバル説明会  
 11月14日(日) FM番組出演 (秋葉)  
 11月15日(月) 「かがやく」スタッフ会議 ⑦ と食事会 (前号の反省会)  
 11月16日(火) フェスティバル 展示・実演部会  
 11月16日(火) 11月定例会 (松崎、西久保、増岡、松永、杉山、森田、曾根、柳橋、秋葉、田中、岩崎、下野、室山、塚田)  
 11月21日(日) FM番組出演 (柳橋)  
 11月24日(水) 会計処理  
 11月25日(木) フェスティバル役員会 (秋葉、山尾)  
 11月27日(土) 番組製作 ③ (秋葉、杉山、長谷川、室山、山尾)  
 11月29日(月) 「かがやく」スタッフ会議 ⑧  
 12月2日(木) フェスティバル実行委員会 ⑩  
 12月4日(土) 第5回いるま生涯学習フェスティバル (準備)  
 12月5日(日) " (開催日)  
 12月6日(月) フェスティバル後片付け (秋葉)  
 12月10日(金) 会計処理 (岩崎、山尾)  
 12月12日(日) FM番組出演 (山尾)  
 12月13日(月) 「かがやく」スタッフ会議 ⑨  
 12月17日(金) フェスティバル反省会  
 12月19日(日) FM番組出演 (室山)  
 12月20日(月) 「かがやく」スタッフ会議 ⑩  
 12月21日(火) グループ・団体冊子検討スタッフ

12月24日(金) 会計処理 (山尾、杉山)  
 1月9日(日) FM番組出演 (山尾、杉山、三浦)  
 1月11日(火) パソコン入力勉強会 (山尾・柳橋) [山増]  
 1月11日(火) 会計処理 (山尾)  
 1月16日(日) FM番組出演 (岩崎)  
 1月17日(月) 「かがやく」スタッフ会議 ⑪  
 1月18日(火) 会計処理 (山尾、杉山)  
 1月18日(火) 1月定例会 (秋葉、岩崎、栗原、下野、杉山、塚田、松崎、松永、室山、森田、山尾)  
 1月19日(水) FM番組企画会議 (山尾、杉山) [小笠原]  
 1月24日(月) 「かがやく」スタッフ会議 ⑫  
 2月1日(火) 情報収集資料の整理 (山尾) [山増]  
 2月3日(水) フェスティバル実行委員会 ⑪ (秋葉、松永、曾根、山尾)  
 2月5日(土) FM番組 企画会議  
 2月7日(月) 「かがやく」スタッフ会議 ⑬  
 2月13日(日) FM番組出演 (岩崎、山尾)  
 2月14日(月) 「かがやく」スタッフ会議 ⑭  
 2月15日(火) 2月定例会 (秋葉、岩崎、下野、杉山、曾根、田中、増岡、松崎、松永、三浦、室山、森田、柳橋、山尾)  
 2月19日(土) 入間市公民館大会 (室山)  
 2月19、20日 彩の国 国際フォーラム (山尾)  
 2月20日(日) FM番組出演 (岩崎)  
 2月21日(月) 「かがやく」スタッフ会議 ⑮  
 2月22日(火) 庁内連絡会議との意見交歓会 (秋葉、栗原、杉山、曾根、田中、塚田、松永、室山、森田、山尾)  
 2月24日(水) 情報収集部会 (山尾、秋葉、森田、室山、柳橋)  
 2月25日(金) FM番組制作会議 (山尾、柳橋、杉山、室山)  
 3月2日(木) 市民の会活動記録スタッフ (三浦・山尾)  
 3月2日(木) 情報収集 (山尾) [山増]  
 3月6日(月) 「かがやく」スタッフ会議 (次年度協議)  
 3月9日(水) かがやくNo.10の仕分け (支所分) (松崎) [長谷川]  
 3月12日(日) FM番組出演 (杉山、山尾) [清水]  
 3月14日(火) かがやくNo.10の仕分け (豊岡分) (松崎、山尾) [長谷川]  
 3月19日(日) FM番組出演 (山尾)  
 3月21日(火) 3月定例会 (岩崎、栗原、杉山、塚田、増岡、松崎、松永、室山、森田、柳橋)  
 3月26日(日) FM放送用CM製作 (栗原、杉山、増岡)  
 3月28日(火) 平成11年度市民の会ご苦労さん会 (松永、山尾、杉山、室山、曾根、三浦) [長谷川、山増]  
 3月30日(木) FM番組制作会議 (山尾、杉山) [長谷川、山増]

(収入)

(単位 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	内 容
1 補 助 金	1,300,000	1,300,000	
2 繰 越 金	39,924	39,924	
3 寄 附 金	400,000	409,000	フェスティバル 協賛金
4 諸 収 入	10,076	46,000 277	フェスティバル 交流会費 利子
合 計	1,750,000	1,795,201	

(支出)

科 目	予 算 額	決 算 額	内 容
1 総務費			
1 会 議 費	80,000	17,978	年間活動記録参照
2 事 務 費	80,000	88,233	
3 備 品 費	20,000	202,836	ノートパソコン ソフト
4 負 担 金			
万燈まつり協賛金	10,000	10,000	
観光協会年会費	10,000	10,000	
2 事業費			
1 普及奨励費	100,000	89,198	スポーツ・ツクル 制作費 番組出演者へ粗品
2 調査研究費	40,000		
3 事業活動費			
フェスティバル	700,000	820,008	詳細別紙
かがやく 情報収集 会報98	20,000 470,000	35,889 489,020	
4 研 修 費	200,000	7,780 1,617 720 4,320	ボランティアコーディネーター 講師食事代 生涯学習ネットワーク 彩の国国際フォーラム
3 予備費	20,000	5,102	来年度へ繰越
合 計	1,750,000	1,795,201	

## 市民参加が問われる時代(とき)“介護保険とNPO”

入間市に住まわれて何年ですか。何人のお友達がいますか。近所で挨拶をかわすだけのお付き合いでしょうか。それとも困ったときは、いつでも助けてくれる間柄ですか？老後の不安はありませんか。・・・年配の方はよくこう言います。『年をとっても子どもの世話にはならない、他人のお世話にはなりたくない。』でも結局、人は一人では生きて行けません。将来の予想は誰も分かりません。

老いて住み慣れた町で生きていく事とは、加齢と共に自らの変化と環境の変化の中、ひとつずつ何かを失いながら生活を送ることなのです。あきらめたくは無いです、何とか老いても住み慣れたまちで生きていくには、いつでも必要な時にサポートを利用できるつながりが必要ではないでしょうか。個人を大切に暮らすには、地域とのつながりが大切だと思います。そこから市民互助の助け合いの精神を目的に全国各地に有償ボランティア団体が生まれているのです。少く負担して頂くこと押しつけでは無く、遠慮無くお願いできる利点があります。

今年、介護保険制度がスタートしました。介護度によって報酬額が決められ営利目的の事業者は、より収益を上げるために躍起になっています。それで安心した生活を送る事ができるでしょうか。人と人のつながりが今一番見直されている中、時間で区切られ、内容もきめられた介護の中、良い生活支援が築けるでしょうか。そこで精神面をもサポートする市民互助型の活動こそこれから益々重要になってくるのです。

私は、市民が立ち上げたNPO法人として介護保険での指定業者になり支援活動が行える事に意味を感じています。営利を目的としない活動、これこそ市民自らの声、利用者の声を反映でき支援活動に結ぶ事ができるのです。

高齢者のサポートの他、子どものサポート活動(子育て支援)へもつなげていけたらと思っています。少子化の傾向の中、今後益々必要な時代になる事でしょう。

産声を上げたばかりの団体ですが、市民の声を行政につたえるパイプ役になりえるよう活動していきたいと思っています。是非、入間市の有志の方々参加協力を募ります。(特定非営利活動法人 入間サポートセンター ひまわり代表)

## デンマークの「生のための学校」

北欧のイメージは、「福祉」と「白夜」ですが、考えていた以上に進んだ社会制度、洗練された資質のライフスタイル、物質文明に振り回さることのない質実な北欧人の生活は、どこからきているのか短期（14日間）の訪問で私が感じたデンマークの教育を例に書きました。

デンマークでは、教育費は大学も含めて基本的に公立は無料で、私立は80%を国が負担し、就学前の教育（成績評価を目的としたもの）をしてはいけない、中学まで試験や成績表が一切ない。不登校の子どもがいない。日本のような学習塾がない。子ども達の成績は中学生までは世界レベルでみてかなり低い。しかしノーベル賞受賞者は世界で一番多い国といわれる。成人教育、生涯教育、再就職のための職業訓練教育など様々な形で学習機会を国民に提供し、政府補助が、充実して授業料の自己負担は極めて少額か無料の国である。

私は、コペンハーゲンからバスに乗って4時間の地にあるリュウ市という小さな田舎町の森と湖に隣接する100年の歴史のある「リュ・ホルケホイスコーレ（国民高等学校）」に6日間の寮生活の体験入学をし、デンマークの若者と楽しい一時を持ちました。

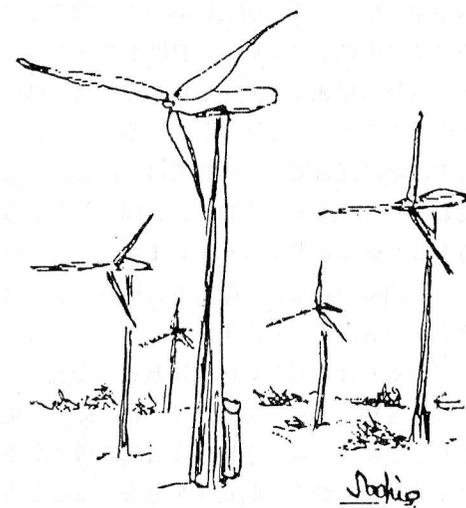
ホルケホイスコーレは、19世紀に生きたデンマークが誇る教育者グントヴィによって提唱された、大学教育や職業訓練教育から離れた人間形成の場である。自由主義と生徒と生徒あるいは、教師と生徒が常に意見交換しながらお互いをいろんな意味で向上させ、高め合うことをモットーにしている。学校は生の喜びを引き出すところであればいいと考え、自分の生きる道を自覚する場所と考えられている。いろんな人間が集まって互いに分け隔て無く付き合い、「共生」と「自立」に目覚める場所であり、「楽しくなければ学校ではない（楽しいことは遊びばかりのことではない）」に基づき、心身の調和のとれた発達を促すこと、個人の持つ才能を発見し創造力を養うことを教育目的とした学校であり「生のための学校」といわれている。日本のような試験・成績勤勉・努力・忍耐が大きな顔をする学校を「死の学校」と呼んでいる。現在、北欧5カ国に400校以上のフォルケホイスコーレがあり、一般科目（文学・歴史・哲学等）もあるが、体操、音楽、演劇といった科目を多数開設しています。ハンドクラフトや芸術鑑賞を主要な学科としたり、発展途上国、環境学、

自然保護など主要学科にした学校もあります。一般成人教育という表題のもとで、これらの学校は個々に重要で適切だと思われるカリキュラムを提供していく自由が認められています。また多くの学校は地域文化の発信地になっており会議やコンサート展覧会などのために施設を解放している。

デンマークの国土面積は、ほぼ九州と同じで人口は約530万人（埼玉県の人口は約690万人）の中で、時間がゆったりと流れ、人々は自然にとけこみ自然と遊び、大地を大切に暮らし、人間みな平等の精神が行き届いた国をまさに肌を感じる思いでした。

今回の旅は、短い期間ではありましたが、デンマークの「生きる意味を問う」成人教育への理解を深めた、楽しく興味深い旅でした。

（入間市男女共生セミナースタッフ）



デンマークのウィンドファーム

## 生涯学習と中学のクラブ活動

—— 硬式テニス部を手がかりとした提言 ——

### I. はじめに

生涯学習の特色の一つとして、人生の各年齢段階における学習活動を掲げることができる。

入間市の子供達にとって、文化・芸術活動やスポーツ活動との本格的な出会いは中学におけるクラブ活動であることが通常である。そして、今春、新しく中学に入学する児童にとって、どのようなクラブに入部するかが、大きな関心事になっていることは、多くの人の共通の理解である。他方、受入れ側の中学においては、少子化、指導者不足、教師の多忙さから、需要に見合う受け皿が用意されていないことは、各種マスコミによって報道されているところであり、我が入間市も決して例外ではないようだ。

過日、ある中学校の入学説明会において、参加した保護者の方から、新しい文化関係のクラブの創部についての質問がなされたところ、学校側の回答としては、「その分野に精通した先生が新しく赴任されれば、創部されるかもしれない。」とのことであったと仄聞している。後日、この話をききながら、知人のお母さん方に半ば冗談で、「それでは、部を担当している先生が転任されたら、部も終わってしまうんですね。」と問うたところ、「実際、部がなくなるか、指導者もなく休部状態になっています。」との返答であった。

このような問題について、入間市も、複数中学の統合クラブ活動の推進や民間人の指導者への登用等、対応策を講じようとしているが、必ずしもそれらが軌道に乗っているとはいえない状況にある。ことに、4月からは、クラブ活動が完全に「課外活動」として位置付けられ、従来の正課教育とは一線が画され、しかも、2002年からは、学校週5日制の導入が予定されている。これらは、中学におけるクラブ活動の質的变化を招来するとともに、生涯学習の観点においても、重要さを加重させるものである。

そこで、以下では、一つの問題提起とその解決への提言として、入間市の市立中学11校のなかで、硬式テニス部が存在するのは1校のみであることから、中学における硬式テニス部の活動に焦点を当てて検討することにする。筆者がこのようなクラブ活動に焦点を当てたその他の理由としては、筆者が自己の生

涯学習活動の一つとして、市内のテニスサークル（硬式）に所属・活動していること、および、次男が市内の任意グループである、入間ジュニアテニスクラブ（硬式）に所属していることから、少なからず、テニス活動に関心と問題意識を抱いているからである。さらには、学校でのクラブ活動に興味・関心を抱いている背景には、筆者が、大学の教員として、研究活動、教育活動、および学内外における諸委員活動の傍ら、学内では、軟式野球同好会の部長、そして、我が国では未だマイナーのスポーツではあるものの、世界選手権にも選手を派遣している体育会ローラー・スケート部の部長（ちなみに、筆者は、ローラー・スケートの経験は一切ない。）をも兼職していることが在る。

### II. 中学におけるクラブ活動の主流としてのソフト（軟式）テニス

#### 1. 沿革と原因

我が国の中学におけるテニス部としては、現在でもソフトテニス部が主流である。そのことは、上述した入間市の例でも理解できる。このことは、ちょうど、野球に例えれば、中学では軟式野球が主流であり、硬式野球は例外的であることに軌軸を一にする部分が多い。すなわち我が国では硬式ボールの製造に関する技術が未発達であったために、硬式ボールは高嶺の花であり、少なくとも学校のクラブ活動費用で賄える範囲を超えていた。

他方、我が国の応用技術は卓越したものであり、ゴム製のボールを発明し、それが汎用化することによって、中学のクラブ活動でも購入・使用できる値段の範囲となったのである。野球の場合には、その他、硬式ボールの硬度による危険性が指摘され、この点は、硬式野球における防具面に現れているが、テニスの場合には当てはまらない。

このように、これまで、中学のテニス部においてソフトテニス部が主流であった大きな理由は、沿革的には、硬式ボールの値段の高さ、および、硬式テニス経験者不足による指導者不足を指摘できるだろう。

しかし、現在においては、これら諸点は、概ね、解決されていると思われる。これは、高校レベルになると、多くの高校では、硬式テニス部とソフトテニス部が併存していること、入間市のテニス愛好人口の大半が硬式テニス愛好者であり、その多くは普通の会社員であったり、家庭の主婦であることから証明されている。

## 2. 問題点の指摘 (入間ジュニアテニスクラブが抱えている問題)

中学においてテニスをクラブ活動として選択したとしても、ソフトテニスと硬式テニスとでは、ボール、ラケットの物理的側面の他に、ラケットの握り方、打法において顕著な差異が見られる。もちろん、上達者のなかには、かつてはソフトテニスの経験者も存在するが、それがためには、硬式テニスへの転換期において、少なくとも、最初は、新たに初歩からの指導を再び受けなくてはならない。そして、このような転向が上手く行かずに、テニスの上達が止まったり、テニス自体を断念する人々も少なからず存在する。

入間ジュニアテニスクラブには、小学校の低学年から中学生までが所属しているが、多くの場合、中学生になると、自校に硬式テニスクラブが存在する1校の生徒を除いては、クラブ自体を脱会せざるを得ないか、形式的には在籍するものの、実際的には休会同然になるかのいずれかである。

上述したように、4月からは中学でのクラブ活動が課外活動となるために、従来とは異なり、何らの部活動に参加しないことも可能となるために、中学では、いわゆる「帰宅部」に所属し、週末には、ジュニアテニスクラブに参加することは自由である。しかし、この場合、ジュニアでは、コートの確保の困難さから(毎月、父母がコートの抽選会に参加しているが、一回につき1面を確保することも困難な状態である。)、活動回数は多くとも毎週1回が限度となっている。他校の硬式テニス部に所属して練習に参加することも理論的には可能であろうが、距離の問題、受入れ人数の問題が現実てきな問題点として指摘され得る。また、平日は、民間のテニスクラブに通わせることも選択肢の一つとして可能であろうが、それには、保護者の経済的な負担が過重になることは必至である。そして、このような活動形態の前提としての、いわゆる「帰宅部」に関して、保護者が最も心配しているのは、クラブ活動は、従来、生徒同志の友情や思いやり等人間関係を育むために重要な役割を果たしてきたことは何人も異論のないところであるが、これが、青年人格の形成期において欠落しないしは不十分になってしまうことである。

### Ⅲ. 中学における硬式テニスの普及 (創部に向けての提言)

中学で硬式テニスが普及するためには、硬式テニス部を創部することが重要な要素となるが、従来、中学での硬式テニスについては、幾つかの問題点が指

摘されていたように思える。そこで、以下では、問題点として考え得るものを抽出し、果して、それが現在でもなお問題点であるのか、また、問題点であるとすればその解決策を検討して見たいと考える。

#### 1. ハード面

##### 〔ボール代〕

現在、硬式テニスボールは、種々の値段のものがある。しかし、ボールは消耗品であるとともに、ソフトテニスと比較すると若干高価である。そのため、日常の練習ボールについては、市内の各テニス・サークルが使用した古いボールを寄付してもらうことによって、ボール代に係わる経済的負担を軽減することができる。実際のところ、ジュニアテニスクラブにおいても、また、硬式テニスクラブを有するM中学においても、同様な方法で練習ボールを調達している。

ちなみに、ジュニアテニスクラブの場合、上述したように、ボール代は必要とされないために、会員一人当たりの年会費(別途に入会金2000円)は、1500円であり、このなかから、コート代、保険掛金、イベント代、事務・会議費等が支出されている。

##### 〔ラケット代〕

硬式テニスラケットは、ボール同様に、ソフトテニスのラケットよりも若干は高価となるが、最近のラケットは耐久性が良くなっているために、買換えの経済的負担は軽減している。また、テニス愛好者の多くは家で眠っているラケットを持っているために、これらを寄付してもらうことによって、経済的負担を無くすこともできる。ガット代についてはソフトテニスと差異がないものと考えて良い。

##### 〔コート〕

硬式テニスもソフトテニスとコートを共用することができるために、コートを擁する中学においては、同時に、両クラブが並行して使用することも可能であれば、両クラブによる交互使用等、利用について相互調整することも可能である。コートを擁していない中学においては、平日の練習等について、市営のコートを借り受けるか、市内の企業または中学以外の学校(例えば、大学)の

擁するコートを借り受けることも可能性の一つとして存在する。週末、祝祭日のコートについては、コートを擁する中学との間で利用を調整し、その活動内容も、合同練習または練習試合形式を採用すれば多くのコートを必要としないものと思われる。

## 2. ソフト面

〔部長または顧問〕

クラブ活動が課外活動と位置付けられるようになって、中学校の管理下に於ける活動であるために、クラブの部長または顧問等、部活動を統括的に管理・監督する責任者には、中学の教諭が就任すべきである。従来、このような任務には、実技指導や対外試合への引率等が付随していたが、それらは、後述するように、民間のヴォランティア指導者に任せ、部長または顧問の任務は、練習日程、練習場所、会計監査等を通して、学校教育に付随するクラブ活動として適切に運営されているかについて監督・指導し、もって、生徒におけるクラブ活動と勉学との両立を図ることに在ると考える。筆者の大学での部員指導も、ミーティングや夏期休暇中の合宿等、時間が自由な範囲内の生活指導が中心となっている。

なお、クラブに関する予算とその実行については、金額が多額にならないこと、さらには、金銭の自主管理もまた生徒の教育面で重要であるために、生徒の運営・処理に任せ、部長また顧問は、それらを定期的に報告させ、指導することに在ると考えられる。

〔指導者〕

ここでの指導者とは、実技を中心とした指導者を指称し、民間のヴォランティアがこれを担当する。一般的には、コーチという文言を使用すれば理解し易いと思われる。

ここで民間ヴォランティアを指導者としてお願いするに際しては、以下、いくつかの前提条件の整備が必要不可欠となる。

### ①民間ヴォランティアの募集、登録および情報管理

昨年、入間市でも、このような指導者に関する募集等を行ったが、それは、一時的かつ地域的のように見受けられる。今後は、市報や体育施設での掲示等を通して、継続的かつ全市的に行うことが必要とされる。そして、ヴォランテ

ィアの登録とその情報管理は、市の生涯学習部が一元的に責任をもって行うべきである。登録情報に基づいて、実際に、どのようなヴォランティアをどこの中学に派遣するのかは、教育長または教育総務部の所管事項になろうと思われるが、ヴォランティア登録に際して、情報の使途について本人の同意を得なければ、個人情報の部外・目的外使用という問題は生じない。

### ②ヴォランティア保険への加入

市がクラブ活動の指導者として委嘱した場合、その活動に際してヴォランティア自身が負傷等することが生ずるかも知れない。そのような事態に備えて、市による保険掛金の負担のもとに、ヴォランティアに保険をかけておくことが必要である。このような保険として、まさしくヴォランティア保険なるものが存在するが、テニスならば、責任保険の一種としてテニス保険が存在する。ちなみに、筆者が加入しているテニス保険の保険掛金は、年1400円である。

### ③生徒の負傷等におけるヴォランティアの免責

ヴォランティアがその適正なクラブ活動指導にもかかわらず、生徒が負傷等した場合、それに対して、ヴォランティアは一切の責任を負わないことを予め明確にしておくべきである。ジュニアテニスクラブにおいても、この点は、入会時における確約事項となっている。万が一、クラブ活動中に子供が負傷等した場合には、テニス保険（保険掛金は年450円）で填補されることになっている。筆者の大学の場合でも、大学が一括して保険に加入しているために、学生の負傷等は、この保険によって填補されている。中学生の場合、すでに学校が生徒のために保険等に加入しているために、ことさら、新たな保険に加入することは必要ないものと思われるが、ここでは、ヴォランティアの免責を明確にしておくことが重要とされる。

### ④ヴォランティアによる生徒の引率

これまで、公式試合等に際しては教諭が生徒を引率していたが、今後は、ヴォランティアが単独で生徒を引率できるようにすることが必要とされる。この点については、法的または行政拘束が懸念されるところであるが、もしそのような拘束が行政的なものであり、かつ行政の自由裁量の範囲に在るものならば、積極的に、ヴォランティア単独での生徒の引率を認めるような配慮がなされるべきである。

なお、従来のクラブ活動においては、多くのクラブは、公式大会・公式試合への参加を目標として練習に励んで来たようであるが、今後は、このような、公式大会・公式試合に参加しないことを前提とするクラブ活動も選択肢の一つ

として考えることが必要であろう。生徒にとっては、公的に一定の成績をあげることのみが、クラブ活動の目的ではないものとする。もしも、公式大会・公式試合に参加しないとしても、市内または近隣中学との間で、親善もしくは交流大会・試合をすることは可能である。

#### ⑤ヴォランティア指導者証の発行

民間のヴォランティアに指導を委嘱する場合、ヴォランティア指導者証の発行が望まれる。ヴォランティアとはいえ、クラブの指導をなすに当たっては、対外的に、クラブ指導者であることを証明しなければならないことが多いからである。筆者の大学でも、各部の部長・監督・コーチ等について、このような証明書が発行されている。(なお、この証明書は、本人の希望によって、B5版の証書様式または携帯に便利なポケットサイズが選択できる)

なお、ヴォランティア指導の委嘱に際しては、それが生涯学習とともに、学校教育とも関連を有すること、さらには、対外的な信頼度を確保する点からして、教育長名での委嘱が妥当と考えられる。

#### IV. おわりに(総括)

中学生は、精神的にも肉体的にも、子供から大人への転換期に在る。

彼らは、私達以上に文化・芸術、スポーツ等種々の分野に興味や関心を抱いており、その持て余す潜在能力のはけ口を求めている。その大きな部分をクラブ活動が占めているが、残念ながら、現在の状況は、彼らの要請を満たすに至っていない。他方で、生涯学習の実践によって、その能力を活用し、彼らに協力を惜しまない大人達が存在する。

本来なら、このような一つの共通事項について需要と供給が存在するならば両者が何の問題もなく結合できるはずである。しかし、これまで、これは、必ずしも実現しているとはいえない状態である。

その原因の一つは、従来、両者の媒介体が十分に機能していなかったためであると判断する。他の一つの原因は、少子化や指導者不足等、中学でのクラブ活動に関する問題点が指摘されてきたにもかかわらず、学校教育との関連から、民間ヴォランティアの活用が十分になされ得なかったためと判断する。

しかし、これらの問題点は、すでに解決への糸口が見つかっているものと思われる。例えば、入間市には、組織改革によって生涯学習部が置かれ、生涯学習に関する市民の推進団体である「入間市生涯学習をすすめる市民の会」が存

在し、活動しているからである。また、文部省も積極的に「ゆとりの教育」を推進し、その一環として、中学におけるクラブ活動も「課外活動」に位置付け、同時に民間活力の導入にも積極的になっているからである。換言すれば、中学におけるクラブ活動の変革に関して、まさに、今が実践の時期であると同時に、その好期であるといえる。

本稿においては、少々、辛口の提言をしなければならない結果になってしまった。このような提言は、識者によって、「ノイジー・マイノリティー」の戯言であるとの批判を受けるかも知れない。しかし、中学のクラブ活動に関するかぎりは、子供本人はもとより、保護者の多くが不満を抱いていることは事実である。保護者の多くは何らかの解決策を切望しているが、それが「サイレント・マジョリティー」にとどまっているのである。本人や保護者が口を閉ざしている理由については、あえてここで明らかにする必要はないだろう。

子供達が、日常の勉強とは異なる土俵の上で、共通の目標の下、お互いに切磋琢磨し、お互い尊敬・信頼し合える人間関係を築こうとしているとき、私達は、社会的に、これを支援する責務を負っているとしても、これを阻止・妨害する権利を有していないといっても過言ではない。

今や、中学生をはじめ、青少年の行動が問題視されている。しかし、彼らを健全に育成する責務は、単に、学校や家庭ばかりではなく、社会全体に求められている。

「入間市生涯学習をすすめる市民の会」をはじめ、生涯学習、学校教育に関する諸機関においては、中学におけるクラブ活動についての問題に真剣にかつ積極的に取り組んで頂くことを切に望みながら、筆をおくことにする。

なお、本稿では、実在の団体名を掲げ、その活動内容等に言及した部分があるが、それはあくまでも筆者の個人的な見解であることをお断りしておきたい。

平成12年(2000年)3月14日記

## 教育・学習のイメージと生涯学習

### 1 教育、学習の一般的イメージ

「教育」という言葉に対して、今を生きる人はどのようなイメージを持っているのだろうか。

色でたとえると、何色になるだろうか。明るい色、暗い色……。

味でたとえるとどうか。甘い、辛い、塩辛い、酸っぱい……。

楽しいものか、辛いものか……。

自由な雰囲気か、堅苦しい雰囲気か……。

主体的なもの？ 強制的なもの？……

そしてそれは、よいイメージなのだろうか、悪いイメージなのだろうか……。

また、「学習」という言葉についてのイメージはどうだろうか。学習という場合も、色や楽しさなどのイメージは、教育という言葉と重なるのだろうか。

一般的に、「学校時代を成功裏に過ごせた人の場合、教育や学習について、前向きな、よいイメージをもっている」、といわれている。

これまで教育といえば学校教育が中心であった日本では（必ずしも日本だけではないようだが）、「教育」のイメージは、学校での生活のイメージと重なる。また、「学習」といっても「教育」の場合とイメージに大差がないのは、学校教育の中でも「学習」という言葉が用いられ、「教育は先生が、学習は生徒がするもの」といわれたり、「自主的な学習」をさせられたりした結果、どちらかといえば強制的なイメージが含まれてしまったからではないかと思う。つまり、学校教育の時代をどのように過ごすかということが、知識・技術の獲得度だけでなく、その後の人生や生きる姿勢までも決めてしまっていたといえるかも知れない。

特にまた今、教育改革が進められているとはいっても、学校教育の中で問題とされてきた校内暴力やいじめ、管理教育、学級崩壊、さらには不登校問題が続くことなど、子どもたちをめぐる学校教育場面であまりよい話題が見られなかったことも、よいイメージにつながらない原因としてあげられるであろう。

### 2 人間の教育

狼に育てられた子どもが十分に人間としての能力を発揮し得なかったことから分かる通り、「教育」という働きかけがなくして人間にはならない。そのことは誰でも知っている。

また、人間は他の動物と違い、「早産」でこの世に誕生する動物といわれている。テレビ番組で時おり取り上げられるように、多くの高等動物、特に草原で生活する弱い草食哺乳動物などは、生まれてすぐに独り立ちして行動できるように、母親の体内でかなり成長してから生み出される。

人間の子どもの場合、生まれた直後は転がることさえできない。言葉は持たないし、考えることもできない。親の配慮の下で、泣き声を上げながらただ生きていくだけである。そして、「一人前」に家族を持つようになるには、二十年近くかかるという厄介な生き物でもある社会的な動物である。一人きりでは生きられないし、大きくなれない。

一人で大きくなったような顔をした高校生のはいているGパンは、どこの誰かわからない人が一生懸命に働いて作り上げたものだ。それをアルバイトで得たお小遣いで手に入れている。選べぬ親の元に生まれても、やがて流行の言葉を使い、社会の文化や価値観を身につけて、Gパンがほしいと思ったり、値段が高いと考えたり、似合うかと思案したり……。そのような社会の中で、社会を構成する前世代の大人たちからの働きかけがなくして人間とはならないのだが、何が「教育」なのだろうか。

多くの人々がもっている「教育」のイメージは、次のようなものかも知れない。

やりたいことが他にあるのに……、思うようにさせてもらえない

やりたくないこともやらなければならない

先生がいる

教室がある

教科書や黒板などの教材、教具がある

宿題やテストがある

覚えるべきことがやたらと多い

同じことの繰り返しで飽きてしまう

将来何の役に立つかわからない

成績表・通信簿がある

ごほうびがある、あるいは、しかられる

……

- 20 -

このようなことが教育なのだろうか。

日本に生まれ、いつの間にか日本語を話し、脳の中は日本語を理解する仕組みが出来上がり、日本文化の特徴といわれる「義理」「恩」「詫び」「寂び」なども理解している。日本語で悔しがり、悲しみ、うれしさを言葉に表す。会社では靴を履きながらも、家に帰れば靴を脱ぎ捨て、決して土足では上がらない。好きな音楽の歌詞は何度でもCDを聞いて覚えてしまう。「人の振り見て我が振りなおせ」などという諺も、いつからか自分の生き方の信条にしている。好きではじめた水彩画がずいぶん溜まり、居間の額に入れて飾ってあり・・・。

人間がこのような行動を取ることができるのは、学習した成果であるが、それはまず以って教育の結果でもある。家庭での養育・しつけ、家庭教育としての親のかかわりから始まり、学校では教師からの働きかけがあり、社会にあっては職業人として、あるいは市民としてのふさわしい行動・振る舞いができるように、研修や自由参加の教育の場などがある。

よく言われるように家庭教育、学校教育、社会教育の三者が関わりあってこそ、教育の成果が上がるのが教育である。教育は学校教育だけのものなどと考えるのはならないだろう。冒頭でイメージを取り上げたのは、そのことをどれだけ自覚することができるかということを問題にしたかったからである。

矛盾を含みながらも必死に親が子どもとかかわろうとする家庭教育や、生活上で必要な内容についてさまざまな機会を利用して行われる社会教育も、教育の大事な分野であり、働きかけである。今その地点に帰ることが、生涯学習に求められているように思うのである。

### 3 生涯「学習」というけれど・・・？

「生涯学習」というのは、何か特別なことなのであろうか。誰にでも「必要に応じて学ぶこと」はある。好きな趣味には研究や研修に余念がない。十分な時間がなくとも、何とか時間を見つけて楽しんでいる。

また、学習は楽しいものであるはず（「楽習」と書く人もいる）。生涯学習なのだから、「生涯にわたり好きなことだけを学んでいけばよい」のだろうか。

また一方、学習に猛烈に取り組んでいる人がいる。資格がもてはやされるこの時代、資格取得を目指した人たちである。だが、資格は職業に必要なものであっても、持っているからといって、その職につける保証はない。しかし、

もっていればいつかは使うときが来るかも知れない。必要に迫られて資格取得を目指した学習をしている人もいよう。しかし、いつ使うか分からないもののために努力して学習しているともいえる。それが生涯学習ということなのであろうか。

一人一人の取り組みが大事にされるとはいつても、それが生涯学習の一部であるとはいっても、全てであるとはいえないであろう。

人はいったい何を学ぶのか。

現在の生涯学習の理念がはじめて語られたのはユネスコの場合であったことはよく知られている。現実的な教育の問題解決のために求められ、考え出されたアイデアが、「生涯教育」であった。それはやがて、「教育」のイメージがよくないから等の理由で、「学習」へと変えられた。

しかしそれより以前にも、空想的と言われながらも、世界で最初に生涯教育の必要性が叫ばれたのがフランス革命のときであったことは、教育関係者を除いてあまり知られていないかも知れない。だが、「教育」についてのイメージがなぜかよいものとは思われない現在、生涯学習の考えを再考すると同時に、「教育を受けること」や、「教育の意味」を考えるために、その時点まで戻る必要があるのではないかと思う。

### 4 「学習など嫌い」といつて・・・

繰り返しになるが、ユネスコで「生涯教育」といわれていた時期には、「教育の問題」として議論されていた。しかし、「教育」の用語は「学習」の用語と併記されたり、抜け落ちたりしてしまい、誰が教育し、どのような内容が教育されるのか等が不明瞭にさえなっている。それは、教育として目指すべき価値があいまいであるということになりかねない。

日本においても、臨時教育審議会から「生涯学習体系への移行」の答申が出されて以降、「生涯学習」といわれるようになった。その理由の一つには、ユネスコの場合と同じく教育についてのイメージの問題がある。そして理由付けとして、一人一人の「主体的な学習」を大切にする、そして、そのような学習ができるように条件を整備することが「生涯教育」であるとした。これはある意味で、教育の「窮屈さ」を認めてしまったことになる。だが果たして教育をそのようにとらえるだけでよいのであろうか。

教育は、知識・技術の獲得のみならず、生活様式・生活態度の変容を含んでいる。それは、子どものみならず大人や高齢者になっても必要なものである。

とはいうものの、既に、学習が嫌いであるからといって学習しなくてもよい世の中ではなくなっている。たとえば、否応なしにパソコンの知識・技術は必要になっている。

そのことを突き詰めると、学習をする・しないということが、社会的な成功とかかわってくることになる。社会全体として、好きな言葉ではないが「落ちこぼれ」をつくりかねないということでもある。

教育は一人一人の豊かさをもたらすものでなければならない。生涯学習はそれを可能にするものなのであろうか。もう一度考えることが必要であると思うのである。

#### 5 人間としての豊かさを考えるとき

世の中、いろいろな人がいる方がよい。多様な考え、価値観があってよい。しかし、人として目指すべき価値は、あまり多くないのではないだろうか。

インターネットで世界中の人と意見を交換することができる。かなり自由にものを考え、行動することもできる。

このような時だからこそ、人間としての豊かさを考えるべきである。二十世紀はいろいろな表現で語られている。戦争の世紀、環境破壊の世紀、等等。しかし、それらをまとめて表現することが許されるならば、それは、「実験の世紀」といえるかも知れない。人間の叡智はさまざまな問題を生み出すと同時に、「思考実験」なるものを考え出した。また、生態学という、人間などの生物とそれらを取り巻く自然環境（無生物を含む）との関係を考えなければならないという研究分野や視点も、見出している。

このことによってどう変化するか、この結果どのような事態になるか、このことは何と関連をもっているか等々、実際の行動をとる前に、「思考実験」することは可能である。同時に、人間として、目指すべき価値との関係でいろいろと考えるべきであろう。人類は二十世紀に既にいろいろと実験をしてきている。新たな問題として浮上してきた臓器移植やクローン問題、遺伝子問題なども、「専門家」にだけ任せておいてよい問題であろうか。

以上

## さいたま・子どもフォーラム

来る2000年7月15日(土)・16日(日)に、浦和市の埼玉会館、県民健康センター、教育会館、浦和市民会館、浦和中央公園、玉蔵院で開催します。

「さいたま・子どもフォーラム」が目指すことは、

- ①立場を越えた協働（子どもと大人、そして市民団体どうしが力をあわせる機会をつくりましょう。）
- ②子どもの権利の確立（子どもも大人もその人格を限りなく尊重し合いましょう。）
- ③新しい暮らしの場の創造（自分たちの手で、子どもも大人もいきいきと暮らせるまちをつくりましょう。）

21世紀を前に、様々な市民団体が各々の違いを認めあい準備し創っています。埼玉県では初めての試みで、現在70団体が参加しています。まだまだフォーラム前日まで実行委員は募集しています。

「協働」することで、なにか新しいものが生まれることを願って開催します。私はこの中で「子どもの声に耳を傾ける」～チャイルドラインの現場から～の分科会を担当しています。チャイルドラインとは、その名の通り子ども専用の電話回線です。電話相談とは違い、子どもの心に寄り添いながら子どもが自分自身で悩みを整理できたり、ほんの一步踏み出すことができるよ手助けするためのものです。ここでは電話をかけるのも、切るのも子どもの自由です。主導権は、子どもにあります。

私の生涯学習は「子ども」が視野に入っている活動です。



## 加治丘陵『春のさとやま探検隊』に関する報告

加治丘陵春のさとやま探検隊は、平成12年3月25日(土)～26日(日)の二日間にかけて、市内の加治丘陵と農村環境改善センターにおいて実施された中央公民館の事業です。この事業は、あらかじめ市民と中央公民館との間で話し合いを行い、市民主導の事業にすることにしていました。今後、入間市の生涯学習の推進のための題材となる事業であったと思われるので、かいつまんで報告いたします。

### 1. 目的 「何をしようとしたのか」

加治丘陵は、昔から主に農家の生活に密着した『里山』であり、人の手によって維持・育成がなされ、人々の生活に数々の恵みを与えてきた山林である。即ち、人間と隔絶された原生林ではなく人々の生活の香りがする山林である。

現在は、ライフスタイルの変化に伴って、『自然資源』や『都市の緑地』としての位置づけが強まっているが、今後は『オンリーワンのまちづくり』を進める上で、入間市の明確なシンボルになり得るとともに、市民の心の拠り所や新しい環境ビジネスの資源としても注目され始めている。

そこで、この加治丘陵の素晴らしさを幅広く伝え、人々の交流を進め、未来のまちづくりのつなげることを目的に当該事業を行った。

主な目的は、次のように整理される。

#### ① きっかけづくり

- ・自然・文化・交流をテーマとし、加治丘陵の自然を広く認知させるためのきっかけづくりとする。
- ・昔からの里山の環境を受け継ぎ、今後の市民生活に適合し役立てながら維持していけるよう、未来の里山のあり方をみんなで考えるきっかけとする

#### ② 市民主導の事業展開

- ・生涯学習フェスティバルを参考に、市民参加の事業を市民主導で企画・準備・運営を行うモデル的な事業とする。
- ・これまで、生涯学習に関わる活動を行いながら、行政にあまり関わっていない力のある市民を中心に実行委員会を組織し、学習成果の発表の場と位置づける。

#### ③ 市民ネットワークの構築

- ・実行委員会(18名の市民の委員)を中心に協力スタッフ(約60名の入間市民や近隣市民)、参加者(講師、出展者等)、来場者によって誰もがアクセスできるゆるやかで広範囲の市民ネットワークを形成する。
- ・市民主導の事業に企業や行政を巻き込むことで、粋取り払った誰もが主役の事業を行う。
- ・市職員は、事務局以外を全て市民ボランティアとして携わることとし、職務ではなく、コミュニティの一環として参加する試みとする。

### 2. 事業内容 『どんなことしたのか』

#### ① 講演会

- ・椎名 誠氏、盛口 満氏による講演会

#### ② さとやま体験

- ・子どもキャンプ、星の観察 ・山林管理 ・親子植樹 ・炭焼き
- ・椎茸栽培

#### ③ 文化、芸術とのふれあい

- ・里山アート ・木づくりオモチャ ・散歩DEアート
- ・ふれあいコンサート

#### ④ 地域の人々とのふれあい

- ・模擬店 ・その他

### 3. 評価1 『どこが成功だったか』

当初の目的は、ほぼ達成できたものと思われる。客観的に見て、特に次のような点が成功であり、意義のあるものと考えられる。

- 1) 行政が裏方にまわり、市民主導を支援する事業ができた。これは事業当市からの来場者の言葉にもあったが「市民が引っ張っていくまちづくりづくり」につながる事業が行われたことと考えられる。
- 2) 市民・地域住民・市職員の交流により、新たなコミュニティ形成の一端となった。
- 3) ユニークな人材の発掘の場となった。
- 4) 行政界を越えたボーダーレスのコミュニティ形成に寄与することができた。
- 5) 肌寒い季節にもかかわらず1,800人の来場者を動員できた。
- 6) PRにあたりFM入間・ICTV・西武鉄道その他の協力を得られると

ともにコミュニティ形成につながった。また、新聞等のメディアも相当積極的なPRを展開してくれ、地元企業からの協賛・協力を得られた。

- 7) 各コーナーの参加者・来場者でコミュニティが形成され、人づき合いが始まった。
- 8) 近隣住民からの苦情等が一切出なかった。
- 9) いろいろな検討を行うとともに、講師や参加者の協力によって、予算内での運営ができた。

#### 4. 評価2 『どうして成功できたか』

- 1) 事務局が実行委員会の発想に任せてくれたこと。  
\*事務局が裏方に徹するなど、行政のふところの深い対応は、何より効果があったと思われる。これによって、実行委員が気持ちよく各々の力を発揮できた。
- 2) 企画・準備・運営の詳細な部分なわたり、実行委員・協力スタッフが自分で考え、的確かつ精力的な行動ができたこと。
- 3) 事業の舞台となった金子地域の人々の協力が得られ、楽しんでもらえたこと。
- 4) 実行委員・協力スタッフ・参加者も自ら楽しめる事業になったこと。
- 5) これらの要因としては、事務局と実行委員・協力スタッフ・参加者等の信頼関係によるところが極めて大きいと考えられる。  
\*事業の意義・目的を十分に理解したこと。  
\*人間関係を第一にネットワークを創ったこと。

#### 5. 評価3 『反省点等』

- 1) 開催場所、椎名誠氏のスケジュールなど、大きな部分での企画の変更が余儀なくれ、加えて盛りたくさんの内容であったことから、実行委員がややオーバーワークになった。
- 2) 天候には恵まれたが、やむ得ずとは言え、肌寒い季節や年度最終の土日という時期の設定は今後検討を要する。
- 3) 特に盛口満氏の講演会は素晴らしい内容で、大好評であったが、開催場所の都合上60名程度で満員となってしまった。
- 4) 今回は、自然とのふれあいを重視する上で、マイカーでの来場を制限した。市のバスによる送迎を行ったが、市民の多くは、マイカー利用が一般的で

あることから、事業の内容と場所によっては、駐車場の確保についての検討が必要である。

#### 6. 今後の課題

今回の事業を終えて、生涯学習・市民参加の推進という観点での課題を抽出してみた。今後、次のような点についての検討が必要であろう。

- 1) 入間市には、力のある市民がたくさんいるはずであり、市民主導や市民参加の機会をより一層増やしていくことが必要である。目的を同じくする活動を通して、対話が生まれ、市民同士・市民と行政同士の関係は必ず向上するはずである。
- 2) 市民同士の「ゆかり」や「おつきあい」や「心意気」といった基本的なコミュニティを大切にしながら、ネットワークを広げていくための検討を市民自らが進められる環境整備が必要である。
- 3) 今回の事業の準備期間は、平成11年9月から約半年をかけていたが年度をまたぐ長期的なスケジュールの検討など、行政の弾力的な対応が望まれる。
- 4) 今回の事務局の対応は、実行委員会等を信頼し、自由な発想による事業の推進を実現させてくれた。今後の生涯学習・市民参加の面では、こういった「ふところの深い行政の態度」が何よりも重要であり、市の各部署において手本とされることが望まれる。
- 5) 市民と行政がさらに信頼関係を深めるためには、特に市民が、単なる行政批判ではなく「アイディアを持った議論」を行えるよう努力する必要がある。

## 人間市生涯学習をすすめる市民の会会員になって

—— 一年を顧みて ——

### ① 委員1年生誕生

平成11年4月1日から「人間市生涯学習をすすめる市民の会」の委員になり、丁度一年を過ぎ、委員として何が出来たか？一年を反省してみました。

まず、自分が人さまに「生涯学習をすすめる」知識、技能、資格などあるわけではなく、「なんで委員に推薦をされ、市長の依頼状をお受けする」こととなってしまうのかという疑問でした。

自分には団体の長とか、リーダーとかの経験もないし、「困った事になったな！」と思い色々と考えたあげく「そうだ、自分の日常生活を見て自分を推薦してくれた方が居られたのだから知識、技能などにこだわらないで、自然体で行動すれば良いのかな」との考え方を持つようになりました。

自分の日常生活について、少しふれますと・・・自分は毎日を健康的に楽しく過ごすために色々なサークルに加入して活動をして、色々な方とお会いして楽しい日々を過ごしています。

参考までにちょっと挙げてみると、毎朝約6キロのウォーキング、週2回のミニテニス、週2回の社交ダンス、週1回の水泳、月1回の生涯学習をすすめる市民の会、月1回の自然を歩く会、月1回の西洋毛針を作る会、月1回の溪流釣りの会、2ヶ月に1回の軽スポーツの会等のサークル活動を行っているほか、個人的に妻とバイク・ツーリングやキャンプ、溪流釣り、旅行等毎日を忙しくそして楽しく過ごしています。言うならば、自分は生涯学習の愛好家なのかな？と思っています。

それでは、「生涯学習をすすめる市民の会」では生涯学習愛好家の立場で、臨めば良いのではないかなと思うようになって、肩の荷が降りたようで自然体で行動できるようになりました。

### ② フェスティバル実行委員長にビックリ

ところが、突然（自分にとって）6月に「第5回人間市生涯学習フェスティバル」の実行委員長の大任を押しつけられ、色々悩んだあげく自分はただ生涯学習愛好家の立場で、皆が何をしたいと思っているかを考えて臨むことを

バックボーンとして、20人の実行委員の知恵と汗を結集して、第5回人間市生涯学習フェスティバルの成功を目指して皆でガンバリました。そして「市民による・市民のための生涯学習」を目標に、多くの市民ボランティア、多くの企業、商店と行政が一体となって文字どおり「協働」して、12月5日の「第5回人間市生涯学習フェスティバル」を迎えることができました。

結果として、非常に大勢の来場者が有り、「こんなに多くの学習（習い事）がある事を知らなかった」「演技をしている方々が、生き生きとしているのに驚いた」「フェスティバルに来て良かった」「夫と一緒に来れば良かった」等々の声を多く聞きました。

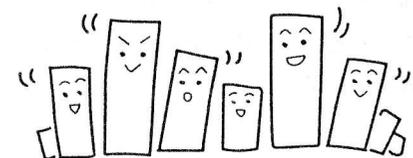
・・・今回のフェスティバルは、市民のためになったんだ！良かった！・・・実行委員の一人として、皆とガンバッテ良かったと思うと共に、「生涯学習をすすめる市民の会」の先輩から、行政の実行委員の方々から多くの教えがあったからフェスティバルを成功裏に迎えることが出来たのだと、深く感謝しています。

### ③ 「いるま学びの場」の作成・・・スタッフ

何かを「学びたい！」と思ったとき、いつ、どこで、どんなことが学べるかすぐにわかる小冊子を作るための民間情報調査・編集スタッフとして、アッチコッチと飛び回って収集した民間情報と行政情報を合体した小冊子が出来上がりました。

自分はただ情報を収集しただけでしたが、出来上がった小冊子は、多くの方々から「生涯学習マップみたいで便利に利用しています。」等の好評をいただいて、アッチ、コッチと飛び回った甲斐があったと喜んでおります。

あっという間の一年間でしたが、先輩委員のリード宜しきを得て、「人間市生涯学習をすすめる市民の会」の委員として、少しは役に立ったのかな？と思っています。知恵のない分、汗をかく事でガンバリますので、今後共宜しくお願い申し上げます。



## ギタ - と 私

敢えて私の生涯学習といえばギター（クラシック）です。学習というより「最後まで手放さなかったもの」というほうが正確だと思います。

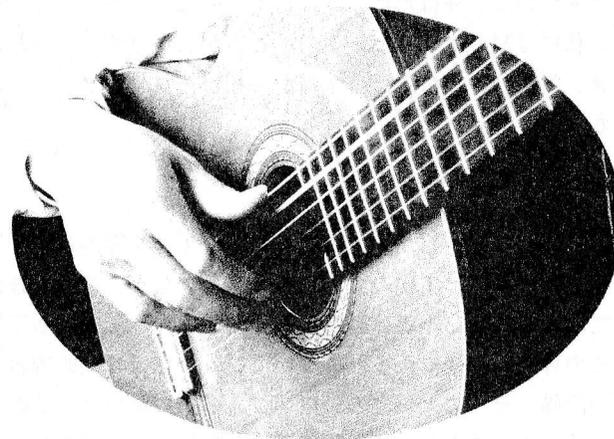
私が20才の頃に弟に買ってあげたギターでしたが、こちらがはまってしまい、とうとう5台も買ってしまいました。ギターに限らず楽器というものは弾き手を釘付けにする魔法があるようです。値段も確実に高くなっていくわけですが、ショーウィンドウの中に収まっているギターを一度手にとって弾いてしまったらもう逃げられません。あとはいかにしてお金を捻出するかを考えていました。

5台のギターは、自宅、職場、友人の家と配置し、いつでも弾けるようにしていました。旅行先にも持っていきました。朝起きてから寝るまでギターを弾いていたように思います。学習という点では最初に習った先生（美しい女性）がすばらしい教え方を身につけておられたことが全てであったと思います。ギター教室の日は自分の教習時間（20分）が終わった後も残っていて最後の方（上級者）が終わるまで聴いていました。最後に先生や上級者の方々とお茶を飲んでから帰宅するという今にしてみれば何とも態度のでかい初級者だったわけです。

ギター演奏会にもよく通いました。なかでも上野の文化会館小ホールで渡辺範彦氏の演奏会はショックでした。その日彼は詰め襟の学生服をきて舞台にきたのです。はじめはアシスタントがギターを運んできたのかなと思っていましたが、そのまま座り演奏を始めたのです。「え！演奏者って学生なの！」ところがその演奏技術と云いますか響きの素晴らしさにはただただ圧倒されていました。後に彼は日本のギター奏者の第一人者になるわけですが、プロになるレベルとはこんなものだよと思い知らされて会場を後にしたのを覚えています。

ギターは愛しい子を抱くように演奏する楽器です。はじかれた弦の響き（振動）が押さえている指先やおなかに伝わってくる感覚はまさにもう一つの生命を抱いているといった感があります。そして、これこそギターを弾く喜びだと感じる歳になりました。

わたしは学習するという事は、「夢中になること」だと思っています。はじめから習う理由や目的があまり明確な意識にあるようではその本質や喜びを知ることができないまま終わってしまうように思います。倫理や善悪を抜きにしての話ですが、何か自分を駆り立てて止まないものに出会えることが心豊かな人生を過ごせることであり、世代を越えている人々と親しくなれることにつながるものだと思います。



## つれづれ 4 編

## その1 ふれ合い「ミセス・モアガルエット」

5月にドレスデンに行く機会に恵まれた。その時ふれ合い心に残った人、Mrs. Margaretはドイツ系アメリカ人。英会話のできない私を相手短文で、ゆっくりと、わかり易く話しをしてくれた人。「私の名前はマーガレットではありません。モアガルエット（うまく日本語にならない）です。」自己紹介で彼女は私の日本語的発音を直した。私はよく聞き取れないけれど、できるだけ彼女の発音をまねてモアガルエットと最初をくぐもってみせた。彼女は私の手を彼女の両手で包み込むようにし「Very Good」といって、楽しそうに笑った。私も何だか彼女の笑いにひきこまれて一緒に笑った。彼女の手の温かさはそのまま彼女の人の温かさと感じられ、私の心に伝わり安心感を与え、その後の4日間日中を共に過ごす間、私は思いつく限りの英単語並び会話で、楽しく過ごすことができた。ちなみにその場には5人のアメリカ人と4人のドイツ人がいて、皆はただ一人の日本人の私に気を使ってくれやさしかったけれど、私にはMargaretの話し方が分かりやすかった。Margaretは昔、学校の先生だった。さながら私は彼女の小さい生徒になった気分心地よかった。

## その2 時間「工場見学」

ドイツである工場の見学をした。工場の一部分の1棟を案内して回り終わるまで1時間あまりかかった。工場の大きさもさることながら敷地ときたら地平線の向こうまで続いている。半導体製造工場のために発電している工場との説明だったが、その専門の人達にたまたまついていった私は専門的内容よりも、工場の大きさや設備、そして人の姿のいないことの方に驚いた。この工場には何人の人が働いているのですか？この質問に、正職員は6名とのこと。

数人でこの広さの工場を管理できるようになった現代。人間の知識の生産物としてより単純化・無人化されていく未来、仕事内容にもよるのかもしれないが今まで存在の一番大きな部分を占めていた普通の人々が多く働き生きがいを感じていた生産作業部分が、単純化され人々には代わりに自分らしく生きるにはどうしたらよいか考える時間が与えられる。今後どのようにして生きていけばよいかを探っていかなければならない、そんな日がきている気がした。

## その3 情報「BBC放送」

ケーブルテレビのおかげでBBC放送を見ることができる。BBC WORLD NEWSを見ているとよく戦っている場面が映し出される。イスラエルパレスチナ、コソボetc。血を流す人々、ころがる死体、爆発風景などテレビ画面の中でのことはそれだけとして受け止められがち。でもこれは現実の出来事で今日もどこかで争いごとが絶えないことを伝えている。たまに、このような争いの中に日本人が巻き込まれる事があると、特別悲惨な事が起きたように日本のマスコミは騒ぐ。ところが日常生活の中で争いの絶えない地域に住む民族の人達はお互い元気であることを確か合うと抱き合い涙して喜んでいる風景が映る。今日元気であることがまるで神の恵みであるかのように。日本に住んでいると別世界の出来事のように思えてしまう。

## その4 「生涯学習ボランティアにかかわって」

5年前、入間市が生涯学習ボランティアの市民側の組織を作るということで関わらせてもらうことになった。生涯学習という言葉すらまだ一般的ではなく障害学習と間違われたりしたことを考えると、今日当たり前のように使われるようになった生涯学習ということばの普及はメディアの力も合わせてとても早い。

いとも簡単に世界のあちこちにいけるようになった現代、思いもかけない人との関わりを楽しめたり、より多くもてるようになった時間について考えるようになったり、情報は瞬時に伝わったり伝えたりできるようになった。人間がつくり出した現代の流れなのにとすると振り回されたり取り残されそうな気さえする。

今後どのように生活をし、生きがいを持っていくか、もっと大きなテーマになっていくと思う。これから生涯学習の行き先はより重要性を増やすと思うけど、生涯学習ボランティアとして何をつかんでいったらよいか、どのような範囲で協力ができるのか、とても難しい。

## ボランティアコーディネーター資質向上セミナーに参加して

## 【主催】

埼玉県教育委員会

## 【趣旨】

地域におけるボランティア活動の一層の支援・推進を図るために、社会の高度化・多様化に対応したボランティアコーディネート知識・技術を習得するためのセミナー

## 【日程及び講義内容】

平成11年6月11日より10月15日の間の5日間（下記表参照）

第1日目	6/11(金)	◇開講式 ◇講義「生涯学習とボランティア活動」 ◇演習「ワークショップ」 ◇講義「ボランティアコーディネーターの役割」
第2日目	8/10(火)	◇講義「ボランティア活動の場の開発」 事例研究「ボランティアのニーズを把握する」
第3日目	8/25(水)	◇講義「カウンセリングの知識・技術」 ◇演習「ボランティア相談の実際」 事例研究「学校における人材活用事例」
第4日目	9/10(金)	◇講義「グループワーク、人間関係等の理論」 ◇現地研修「社会教育施設におけるボランティア活動」 演習「ボランティアグループとの意見交換」
第5日目	10/15(金)	◇講義「ボランティア活動支援システムとネットワークに関する理論」 ◇講義「福祉ボランティアとボランティアコーディネーター」 ◇閉講式

(◇印有りは受講)

## 【内容に関して】

・上記表にあるように、講義7コマ、演習3コマ、事例研究2コマ、現地研修1コマが行われた。(そのうち、講義1コマ、事例研究2コマ、演習1コマが都合により受講できなかった。)

・各テーマを見ても分かるように、直接生涯学習とは結びつき難いようなものもあったが、幅広く興味深い内容のセミナーであった。  
例えば、「生涯学習とボランティア活動」(講師 大堀 哲氏)の講義では、まずボランティアというものの意味・意義自体が日本においてどのように変化してきたかから始まり、生涯学習ボランティアの役割や養成・研修の意義等について、氏の国立科学博物館での実体験を基に話があった。  
また、「ボランティアコーディネーターの役割」(講師 村上 徹也氏)の講義では、専門職としてのボランティアコーディネーターとは何か、どんなことをする人か、どんな役割を果たすべきか等の話があった。  
更に、演習の中では、「ボランティア相談の実際」として、ロールプレイの仕方などもあった。この内容は、生涯学習とは直接結びつきがないようではあるが、人と人の会話のあり方として、印象深く残ったものであった。

## 【所感】

今回、セミナーの中で聴いたり体験したりしたことにより、自分の頭の中で描いていたボランティアというもの、ボランティアコーディネーターというものがかなりはっきりとしたものになってきた。そして、入間市において生涯学習をすすめる市民の会(以下、市民の会)は、これから何かを始めていこうとする人や実際に行動している人を支援したり、横のつながりを持たせてあげたりすることで、いろいろな人たちがより生涯学習に取り組みやすいものにしていけると良いのではと感じた。正に、ボランティアコーディネーターは市民の会の役割の一つなのではないだろうか。

また、今回事例研究「学校における人材活用」(講師 蕨市北小 栗原 元一教諭、八潮市八幡中 関野 茂教諭)を受講できなかったのは残念であったが、学校の中に地域のボランティアをうまく活用していく仕組みづくりは、これから入間市においても重要なのではないだろうか。その中で、人材の把握に関しては市民の会の力によって情報の収集が可能なのではないだろうか。また、そのために市民の会がどのように活動を展開していくかが今後の課題の一つなのではないかと思う。

期 間 平成11年7月26日(月)～7月30日(金) 5日間  
 研 修 先 国立教育会館社会教育研究所・中野区もみじ山文化センター  
 概 要

この講座は、学習相談・情報提供に関する理論と実践的な知識・技術についての専門的な研修を行い、社会教育関係職員の力量を高める目的で実施されたものです。参加者は、生涯学習関係の行政職員や公民館職員、教員、学習相談員などで、学習相談・情報提供を現在行っていたり、または今後コーナーを設置するなどして行うか検討している方々だったので、共通の悩みや現場の事例、考え方を知ることができ、大変心強く、参考になりました。また講義内容も、具体的な実践事例が中心だったため、「学習相談・情報提供」の様々な形を見ることができ、本市の場合はどうしたらよいかを深く考えさせられました。以下、プログラムにしたがって、講義内容を報告します。

〔講義内容〕7月26日(月)午前 「生涯学習関連施策の動向」

講師 文部省生涯学習局社会教育課長 太田和良幸氏

国の生涯学習施策の経緯と近年の動向について、文部省や生涯学習審議会の答申書に従い、説明があった。近年の答申は、多様な人材の登用やデジタル媒体を多用した情報提供、民間の支援などが印象に残ったが、本来の意図を見失わないようにして、慎重に検討すべきと感じた。

〔講義内容〕7月26日(月)午後 「学習支援の在り方」

講師 筑波大学教授 山本恒夫氏

生涯学習社会における生涯学習支援の在り方と、各機関のネットワーク化によって可能となるこれからの支援システムについて、講義があった。特に印象に残ったのは、生涯学習社会において必要な事は、「(学習した)成果が社会で適切に評価」される事であり、そのために、必要な人に対しては「学習成果の評価・認証のサービス」を積極的に行って支援していくべきではないかという事だった。また、これからは、「学習歴」を社会にアピールできるよう、全国的に評価・認証の互換性を持たせ、ICカードなどで学習歴をストックしていけるようにすべきではないかとの話もあった。私の考えでは、学習した事実を認めていく事は、本人の勉強の張り合いにはなるかもしれないが、社会での評価や成果の活用は、社会が認めるだけの学習をしてきたかどうかという内容や実績が問題になるのであって、学習歴だけでは難しいと感じた。また評価・認証の対象となる講座のみが学習歴として認められるのは、生涯学習が「学歴社会の是正」から出発しているにも係わらず別の価値基準を押しつけることに

なりかねないとも感じた。

なお、この講義は衛星通信で他会場に情報を送ったり、コンピュータから講義画面を操作して流すなどの新しい試みが行われ、マルチメディアを意識させるものだったが、なかなかスムーズにいかず、試験的な事例としては意味のあるものかもしれないが、受講生にとっては、媒体のための講義という印象が残った。

〔研究協議〕7月26日(月)午後 「学習相談の現状と課題」

受講生を4班に分け、アイスブレイキングと、各受講生が研修を受けるに当たっての課題や生涯学習の実情等について、意見交換をした。

〔講義内容〕7月27日(火)午前 「学習相談の意義と役割」

講師 淑徳短期大学教授 浅井経子氏

学習相談の意義についての理論と、講師が指導してシステムを構築した横浜市の学習相談の概要、求められる学習相談員の資質等についての講義があった。

私はこれまで、学習相談に必要な事は、相談者の質問にどれだけの確に答えられるかだろうと考えていたが、今回の講義で、学習相談は相談員が答えを提示して押しつけるのではなく、相談者(学習者)自らが答えを見つけていけるように導く役目であることを知った。まさに、「生涯学習」の観点から考えると、各学習者の主体的な活動のお手伝いをする役目であることを痛感した。また、学習相談の範囲は、学習機会やサークル情報等の「案内情報」だけでなく、学習活動を行う中で生じた問題や学習方法についてアドバイスをするなどの学習に関する相談全般を扱っていくべきだとの話を聞き、相談員に求められる能力や責任の大きさを感じた。

横浜市の事例は、以上の考えを細部にまで反映させた興味深いものだったが、特に相談員の養成や相談員のレベルをある程度統一させるために作成された「学習相談ハンドブック」が参考になった。

〔事例研究〕7月27日(火)午後 「学習相談の実際」

講師 前横浜市都筑区生涯学習支援センター 学習相談員 鈴木やよい氏

講師 茨城県水戸生涯学習センター 生涯学習相談員 廣木忠雄氏

講師 新潟県立生涯学習推進センター 学習相談員 工藤信朋氏

学習相談の現場を経験されている担当員の方々が、それぞれの施設における相談業務について、具体的に説明していただいた。横浜市では、各区に学習相談コーナーや学習支援センターがあり、相談員は、市民から任命され、任期は5年とのことだった。

茨城県では、県内4ヵ所に生涯学習センターがあり、各施設に、退職した教員を3名相談員として配置している。新潟県では、生涯学習センターは県立図書館の2階にあり、学習相談員には、退職した教員を2名嘱託として配置している。各事例には、県民や市民に適切な学習情報を提供するための苦労や工夫がわかり参考になったが、興味深かったのは各相談員の相談にとりくむ姿勢である。茨城と新潟の事例では、県の生涯学習情報のコンピュータシステムや新聞、広報誌等の既に公になっているデータから、相談員が判断して提供しているのにとどまっているが、横浜の場合は、相談員自らが情報収集のために学習の場へ赴いたり、各区同士で定期的に情報交換を行うなどして、より相談者の求に近い情報を提供しようと努めていることである。この差は、相談員を任命する側に、どのような人に、どのような相談業務を行ってほしいという明確なイメージを持っているか否かの違いではないかと考えさせられた。この差が1ヵ月約250件の相談がある横浜と、相談件数があまりない他の事例との違いにも現れていると感じた。

〔講義内容〕7月28日(水)午前 「学習情報提供に関する知識・技能」

講師 文部省生涯学習局社会教育官 野末俊比古氏

情報を提供するための媒体であるメディアについて、特にコンピュータによる情報提供を中心に、その基礎的な知識や最近の傾向、現状についての講義があった。情報提供を行う上で大切な事は、対象を考え、各メディアの特徴をふまえて方法を選んでいくべきであろうという話であったが、コンピュータを過大評価しないという事はあたり前で、あまり参考にはならなかった。印象に残ったのは、現在試験的にすすめられている秋田県立図書館の祭り・民話データベースや山梨県立図書館の地域資料(「甲州文庫」)の電子化作業等である。現在ホームページで見られる情報としては、どちらかというと案内情報を中心だが、文部省の意向としては、今後、図書館、博物館などのデータを有する生涯学習施設がデータの電子化をすすめるように依頼していくとの話であった。私自身は、これらのデータが、ホームページで見られるように整備する手間を考え、実際に使われる頻度がどの程度のものか疑問を感じており、今後の動向を見ていきたいと感じた。

〔事例研究〕7月28日(水)午後 「学習情報提供の実際」

講師 宮崎県宮崎市教育委員会 社会教育主事 松本浩昭氏

講師 さわやかちば県民プラザ 情報相談課長 中村久夫氏

講師 埼玉県越谷市教育委員会 生涯学習担当主事 福澤孝之氏

生涯学習情報の提供の方法や内容についての事例報告があった。宮崎市の事例では、生涯学習情報だけでなく、行政情報、医療福祉情報などを、CATV網によって、一般家庭、公共施設、町中のいろいろな場所で、アクセスすることのできるネットワークシステム「サンシャインコミュニティシステム」についての説明があった。ソフトの面で、大変興味深かったのは、会員制の生涯学習情報システムである「サイバーコミュニティシステム」で、これは会員登録した者だけに生涯学習情報を提供し、メールや会議室で会員相互のコミュニティ形成をはかるというものである。会員制にした理由は、それによって個人の嗜好情報をデータ蓄積し、特定の個人に合った情報が提供可能な点、ボランティアなどの個人情報のプライバシーを保護する点からだという。コンピュータを情報提供の道具としてだけでなく、仲間づくりの道具として用いている点に、コンピュータを使った市民の学習のお手伝いのあり方を考えさせられた。とはいえ、理論上は興味深いシステムで、将来性もあると思われるが、コンピュータがこのような道具として有効なものなのか検討の余地があると思った。

越谷市の事例で特徴的だったのは、年1回発行の「生涯学習メニューブック」で扱っている学習機会情報の範囲で、市主催の学習機会情報や大学・高校等の講座とともに、企業やカルチャーセンター、市外の情報機会まで掲載している点である。これは、文部省が民間教育事業者との連携を深めるようにすすめている一方、なかなか市町村で踏み切る地域の少ない中、大変先駆的な事例である。民間情報の提供については、受講生にも高い関心があり、掲載の基準等について質問があったが、カルチャーセンターのように総合的な分野を扱っているところや、同じように依頼をして情報があがってくることを載せているとのことだった。民間情報の掲載は、その基準や手続きを明確にすることや、行政が扱う情報としてふさわしいものかどうかの判断など難しい面は多いが、行政だけで市民のニーズに答えていくことの限界を考えると、その方針を真剣に模索していく段階であろうと感じた。

〔事例研究〕 7月29日（木）午前「学習支援ネットワークにおける学習相談」

講師 日本女子大学助教授 田中雅文氏

講師 青森県県民カレッジ 青森県総合社会教育センター 坂本徹氏

講師 西美濃広域学習サービス 岐阜県安八町教育委員会 戸田栄治氏

講師 ひたち生き生き百年塾 茨城県日立市教育委員会 北原真寿美氏

生涯学習活動がより活発になるよう支援していくシステムについて、近年の動向についての講義と、先進的な県や市町村の個性あふれる実践報告が行われた。講義では、学習情報の提供者は、「学習資源のコーディネーター」となるべきで、相手に合わせてコーディネートする情報を備えていくためには、他市町村等との連携の必要が増してくるであろうとの話だった。また、近年の動向としては、住民が情報の「受けて側」から「供給側」になるケースが多く、「住民参加」が増えつつあるとのことだった。事例報告では、青森県内の市町村、大学・高校、民間企業等の多岐にわたる学習施設と連携して、単位取得ができる制度「あおもり県民カレッジ」や岐阜県内の市町村で行っている広域的なサービスなど、興味深い試みは参考になったが、何といても強く関心をひかれたのは日立市の「ひたち生き生き百年塾」という施策だった。生涯学習の支援策としては、学習希望者のために適切なアドバイスができるよう学習情報を収集・整備することや、何かを教えたい人のために登録する制度を作るといったことがあるが、どれも整備にとどまり、本当の意味で機能しているのか疑問を感じていた。日立市の事例は、制度を作った後、市民自らが活用されるように会合を持って考えていくという形態になっており、まさに「住民参加」による生涯学習が、無理なく機能していることに驚嘆した。日立市の施策を見ると、すぐに成果を求めずに、百年かけて市民とともに作っていくというゆとりが随所に感じられ問題には行政だけで考えずに市民とともに取り組んでいく姿勢が素晴らしいと思った。青森の講師の方がいわれた「ある種のいいかげんさが市民のパワー」であり、それを見守って、市民の主体性を支えていくことが生涯学習の分野では大切な事だという意見が印象に残った。

〔現地研修〕 7月29日（木）午後 「学習相談・情報提供の実際」

講師 中野区もみじ山文化センター 情報ロビー課長 菅野 興氏他

中野区の生涯学習の中核的な施設として、学習相談やコンピュータによる情報サービスを行っている「中野区もみじ山文化センター」を訪問し、現場の仕事についての説明をうかがった。中野区内には15ヵ所ある地域センターで様々な講座を行い、それらの施設を統括する施設が文化センターだという。情報

ロビーには、タッチパネル式のパソコンが数台設置され、学習情報の提供や公共施設の予約ができるシステムが入っている。学習相談は相談カウンターで、研修を受けた2名の相談員が担当している。相談員は研修をきちんと受けているだけのことはあり、明確な問題意識や基礎知識を持った方ようだった。区で製作しているという「たらい廻しをくいとめるガイド」や相談実例など参考になる資料もあり、対応しなければならない相談業務のジャンルの広さを痛感した。また、どこまで応えていくかという範囲を決めなければ、行政の案内業務になりかねないと感じた。

〔研究協議〕 7月30日（金）午前 「学習相談のこれからを考える」

受講生がグループに分かれ、学習相談を行う際の課題や問題点について討議し、発表した。

〔特別講義〕 7月30日（金）午後 「情報雑誌の編集から学ぶ」

講師 「ケイコとマナブ」編集長 木下雅也氏

民間の学習情報を「お稽古系」と「学び系」という独自の視点でまとめた情報誌「ケイコとマナブ」の編集に携わってきた講師を迎え、読者のニーズの変遷や生き残る民間教育事業者の傾向を解説していただいた。想定している読者層は、近隣地区から都内に働きに来ている事務職の女性で、同年代の女性が職場に少なく、何か楽しいことを探しているような人だという。このような人がアフター5に「お稽古系」の教室に入り、同年代の仲間を作り、更に誘い合って別の教室に行くのだという。「お稽古系」と「学び系」の言葉の定義としては、「お稽古」は将来のためになるわけではないがその学ぶ過程が楽しいという学習を指し、「学び」は、就職などの結果を期待する職能系の学習を指すとのことだが、近年は「学び系」のニーズが女性の読者層に急増しているという。男女比率の差は、講師によると、ライフサイクルの差ではないかと分析していた。これは女性の人生の転換期が30代前後であり、自分を「変えなければ」という思いが強いが、男性の転換期は、社内選抜や大学に息子を入れる、家を買うなどの世代で、40代後半くらいの時期なのでなかなか動かない世代であるため、教室の需要が低いのではないかとのことだった。20～30代の女性というのは、行政の生涯学習の中では把握しきれていない世代だと思うがまた違う側面から現状を分析していただくと、行政が支援できる面や民間事業者にお願いしていく面など、事業を考える上で大いに参考になると思った。

（生涯学習課主任）

## 「生涯学習」との出会い

私が教育委員会生涯学習課の推進担当に異動したのは、今から4年前の平成8年4月でした。特別に『生涯学習』という言葉すら意識したこともなく、人間生涯学習をすすめる市民の会という組織の存在すら知らなかった私が、市民の皆さんのための生涯学習活動を支援する組織の事務局として、生涯学習フェスティバルの開催や情報提供などの企画・運営に携われ、また、多くの機会を与えていただいたことに感謝しています。

当時、市民の会も発足2年目でとても活気に満ち溢れ、とても楽しく充実していたように記憶しています。皆で試行錯誤しながら夜遅くまで検討し作成した「人間生涯学習推進計画(7/21)」は、色々な方面で評価されたと聞いています。この計画書は、生涯学習推進の基本的な方向性を示したのですが、一つでも具体的に施策が展開できるように推進者の両者とその立場を尊重・理解し、時間はかかっても着実に生涯学習の推進が図れば良いのではないかと考えています。

新しい職場の区画整理事業も視点は違っても共に目指すところは「まちづくり」です。最後まで難しいことは判りませんでした。現場を離れても、常に『生涯学習』を意識していければと思っています。

(前推進担当・武蔵藤沢駅周辺土地区画整理事務所主査)



## 「いるま学びの場」の誕生に立ち会って

ある日、市民の会の方から事務局の仕事を手伝ってほしいかとの話があり「いるま学びの場」に出会いました。(当時はまだサークル、教室情報と呼んでいました。)私の仕事は、調査員さんが一つ、一つ自らの足で集めてきた情報を慣れない手つきでパソコンに入力することでした。

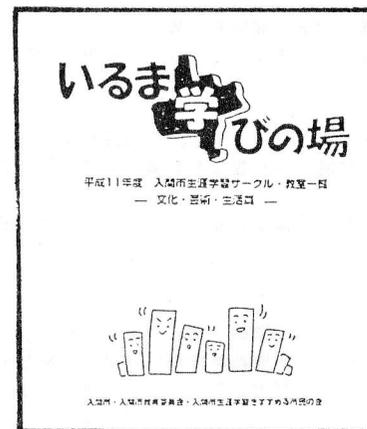
私は民間情報(公的施設を使用しない情報)担当でしたが、茶道・華道・書道はもちろんのこと、民謡・ダンス・吟舞・料理・着付け・・・と様々なサークルがあるのだと驚きました。しかもそれが、ごく一部の情報だということを知り、改めて驚いてしまいました。

何かを学びたいと思ったとき、この「いるま学びの場」を見て、一生涯学習することができたら、なんて素敵なことだろうと思います。

市民の会も行政も、まだ歴史が浅い生涯学習を推進する方法を模索していますが、今回「いるま学びの場」の誕生にあたり、一人でも多くの市民の方に活用していただければと思います。それにより地域が元気になり、子育ても、老人介護も、ネットワーク作りにも役立てるのではないかと思います。

今後多くの方々の参加を得て、「いるま学びの場」がますます発展していくことを心から祈っています。

(人間生涯学習をすすめる市民の会アルバイト職員)



1. 編集スタッフ内訳

- 1) ・生涯学習をすすめる市民の会委員・・・2名
- ・ボランティアスタッフ・・・5名
- ・事務局(生涯学習課)・・・1名

2. 編集号内訳

- 1) 「かがやく 9号」・・・平成11年10月15日発行
  - 2) 「かがやく 10号」・・・平成12年 3月15日発行
- 何れもA4版4ページ白黒、4万7千部印刷(全戸配布及び市内公的機関にて頒布)

3. 活動日数、時間等

- 1) 編集会議日数・・・32日
- 2) 編集会議時間・・・平均2.7時間/回
- 3) その他・・・サークル取材依頼及び取材、写真撮影、関係各位との連絡調整・確認、他

4. 「かがやく 9号・10号」に関して

- 1) 1面について
  - ・今までの写真の部分を実作紹介の場として、2作品を取り上げることにした。
  - ・単に、生涯学習情報紙だけではわかりにくいので、サブタイトルや「生涯学習とは？」の説明文を挿入することにした。
  - ・「かがやく」の題字についても、ひとつの作品としてちぎり絵(10号)で作成して貰った。

2) 2・3面について

- ・今年度の2号については、前号までに扱った「今が旬」の特集として、サークル活動の紹介を行った(9号は公的機関、10号は民間での活動サークル)。

3) 4面について

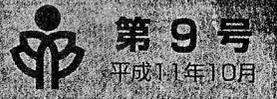
- ・市民の会の活動報告、生涯学習フェスティバル関連情報、を常時盛り込む。
- ・10号より、活動の発表の場になるスペース情報(公的機関、民間)を入れ込むことにした。

5. 今後の「かがやく」に関して

- 1) 「生涯学習」という言葉を市民に理解して貰うため、また、「生涯学習」を広めていくための情報紙であることを念頭に、できるだけいろいろな市民に関心を持ってもらえるような内容にする。
- 2) いろいろな情報の発信をするため、たくさんの方の市民を巻き込んでの情報の収集に心掛ける。できれば、発信した情報に関する反響なども吸い上げ、次なるものに活かしていく。
- 3) 生涯学習情報紙の中には盛り込めないもの、しかし、生涯学習に関するものについては、市民の会に提案していく。

6. その他

「かがやく」の部会については、企画編集に係る作業をボランティアスタッフ(市民の会を除く)の手に依存する所が大きい。今後も企画編集の経験や関心のある市民と一緒に持続性・発展性のあるよりよいものを作っていくことが大切なのではないかと思う。



# かがやく

企画編集：入間市生涯学習をすすめる市民の会  
 発行：入間市教育委員会生涯学習課  
 〒358-8511 入間市豊岡1-16-1  
 TEL 042-964-1111(内4123)  
 FAX 042-964-4841

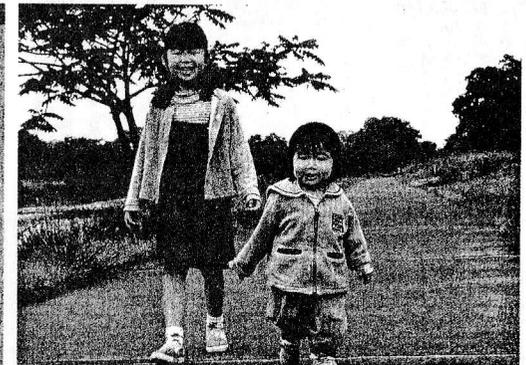
■題字・渡辺舞さん(小2)

生涯学習とは？

生きがいのある充実した生活を送るために、生涯にわたって自由に楽しく学ぶことです。



■古布人形「うさぎ」  
 田中克与さん作(アトリエゆき)  
 古布の手触りの温かさが魅力なんですよ。



■写真「わたしの孫娘」池田靖子さん撮影(西武写真クラブ)  
 子どもの動きを追って、普段の姿を撮るように心がけました。

生涯学習ギャラリー

秋・冬の主な入間市生涯学習イベントカレンダー

開催月日	イベント	会場
10月~3月	ドラマフェスタin入間	産業文化センター・公民館他
10月23日(土)・24日(日)	入間万燈まつり	産業文化センター周辺
10月30日(土)~12月12日(日)	アリットフェスタ'99 「英国水彩画100選」展	博物館アリット
11月21日(日)	市民合唱祭	市民会館
11月23日(祝)	入間市農業まつり	市民会館駐車場
12月 5日(日)	いるま生涯学習フェスティバル	産業文化センター他
12月19日(日)	入間市駅伝競走大会	武蔵工業団地周辺特設コース
2月13日(日)	入間市武道祭	武道館
2月13日(日)	第15回入間市内中学校・高校吹奏楽合同演奏会	市民会館
2月25日(金)~27日(日)	入間市書道展	博物館アリット
2月27日(日)	ISSミュージック・フェスティバル	久保稻荷公民館
2月25日(金)~3月5日(日)	第2回入間市音楽祭	市民会館他市内各所

※10~11月にかけて、各地区公民館の文化祭が開催されます。  
 ※この期間の他の催し物については、10月発行の「いるま生涯学習ガイドブック・下半期編」(公共施設で配布)をご参照ください。また、各催し物のお問い合わせは生涯学習課まで。

「かがやく」取材班リポート  
 ◇公民館で活動している皆さんを訪ねて◇  
 ◇入間市古文書の会「リスミックス」/ミュージックサークル・レインボー/ハープを楽しむ会

「生涯学習アフラカルト」  
 4面

生涯学習フェスティバル/FMいるま番組紹介/サークル・教室情報/茶の都出前講座/入間市生涯学習をすすめる市民の会紹介

特集 ■ 生涯学習サークル 2・3面

### 「かがやく」取材班レポート

入間市には14の公民館があり、そこでは現在約800の生涯学習サークルが自主活動しています。そして、音楽・美術・舞踊・スポーツ……さまざまなジャンルにひろがりをみせています。

そこで、「かがやく」取材班は、公民館を活動の場としている4つのユニークなサークルを訪ねてみました。

#### 古文書に新たな息吹を感じて

入間市古文書の会

●平成十一年四月発足、会員十九名、工藤宏指導、伊藤孝指代表、第四土曜日午後七時より、中央公民館(2964-2413)

●博物館講座より発展

平成七年から四年間、入間市博物館で「古文書で探る人間の歴史(講師工藤宏先生)講座が開催されました。その後、受講者が発足させた自主サークルをお訪ねしました。会員は男女を問わず、三〇代から七〇代と幅広くなかなか雰囲気です。

●知れば知るほど面白い  
この会では入間市に関する古文書を教材に学習しています。現在「下詠草(しもえいごさ)」を学習中。一八六〇年、小合田村の一行二十九人の伊勢・金毘羅まいり道中記を、地元の増田昌平(茶業家・俳人)が書きました。各地で俳句を詠み、旅の

様子を詳細にそしてユーモアを交えて記していますので、学校で習うのとは一味違う歴史が学べます。また、往来手形や通行手形などからも、関所のお調べの厳しさや、お茶商いの手広さが見えてきます。

一つ一つの事柄を詳しく調べ、その時代背景を知るにつれて、「新聞を読むより面白くてのめりこむ」とのこと。活動日には先生より一時間早く来て、グループ毎にその成果を学びあう研究熱心さです。

入会可能な人数には限りがありますが、興味のある方はどうぞお問い合わせください。



#### リズムが台えばストレス解消

リズムミックス

●平成四年発足、会員十名、島崎廣之指導、神谷芳雄代表、主に土・日曜日(不定期活動)久保稲荷公民館(2965-8448)

●誰でもその場で参加できる楽しさ

「ご家族で」という言葉に、十数名にふくれあがった取材班、一曲聞かせていただいたから……と悠長に構えていたら、あっという間にめいめいに楽器を渡され、一時間後には皆陶酔状態で一緒に叩いていた。両膝で挟み素手で叩くアフリカのジエンベという太鼓や、脇に抱えて音の高低を調節しながら先の曲がったばちで叩くトーキングドラム、確かに何かがメツセージを伝えてるように聞こえる。他にも珍しい形の打楽器がいろいろ。メンバー手作りのものも多数。何でも叩けば音が出て音楽になることを実感。楽



●公民館に縁のなかつた人たち…

四年前、第一回太鼓セッション出演のために結成されたリズムミックス。さまざまなリズムをミックスして新しい音の世界の創造をめざす。和太鼓、ドラム電子楽器、鉄の打楽器等、毎年異なる楽器を取り入れ、趣向を凝らしたステージを展開してきた。昨年の万燈まつりでの演奏を聞いて、アフリカ狂の青年と四〇代の入間郡民が、ひたすら太鼓の響きにひかれて、市内各地区また東京から集まってくる男性たち。規則なし飲み会等の付き合いなし、出入り自由。公民館サークルの新しい形を見た。

### 特集 ■生涯学習サークル

## 公民館で活動している皆さん訪ねて...

●入間市古文書の会/リズムミックス/ミュージックサークル・レインボー/ハーブを楽しむ会

#### コーラスではくくむ親子のハーモニー

ミュージックサークル  
レインボー

●平成五年発足、会員二三名、中江美緒指導、高嶋方子代表、毎週火曜日午後六時~七時三〇分、東金子公民館(2962-7711)

●歌う楽しさを親子三代で共有  
コール麻利伊(まりい)という女声コーラスの練習について来る子もたちにも歌を、というところから発足したこのレインボー。週一度の練習を重ね、ミュージカルまで行うようになったそうです。舞台の小道具はお父さんたち、衣装はお母さんやおばあちゃんたちの手作り、家族の応援を得て地域で育っているサークルです。

●発声練習で表情にかがやく!  
その日に何があつた子どもは



見ると分かるような気がします。元氣になって帰って行くことを願っています」と一人ひとりの顔をのぞき込むように発声練習を始める指導者の中台さん。練習の後は、お楽しみゲーム。低学年から高学年まで一緒に遊び、「わ」の中に溶け込みます。子どもたちの表情かのびのびと楽しそうなことに取材班も感動しました。

ピアノの伴奏をしてもらっている首大生や、学校帰りに立ち寄ってくれた中学生のOBにサークルの歴史を感じました。

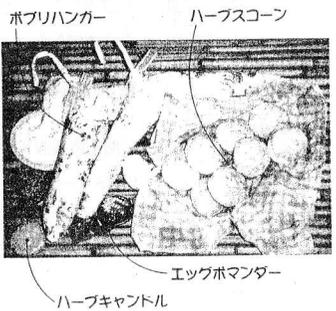
#### 育てて楽しむ癒しのハーブ

ハーブを楽しむ会

●平成八年九月発足、会員九名、庄野幸子指導、秋月和子代表、第四金曜日午前九時三〇分~午後一時、藤沢公民館(2962-6475)

●公民館講座を卒業してサークルで実践!

「アイビーロー?」「フラックスシードとラベンダーがまつっている目の枕なんですよ」「あら気持ちいい♡程々の種の重さでひんやり感、ラベンダーの優しい香り!疲れた目には打ってつけ!アロマテラピーの世界ですね!」ペランダや庭で栽培したハーブを利用し、シャンプー、クリーム等の化粧品、木の葉や星を型どったおしゃれなキャンドルの他、ハンガー、ティーマットなどクラフト達人の皆さんです。



お料理にもフル活用。取材班もローズマリー入りスコーンをご馳走になって来ました。「アロマテラピーの勉強も目標の一つ」とのこと。サークル名どおり「楽しい!」が研修旅行写真や気配り一杯の作品から伝わってきました。

現在藤沢公民館が建て替えのため、藤の台公民館で活動しています。



各公民館の連絡先  
中央9641-2413・扇町962-4449・黒須962-7511・高倉964-4626・東町963-7503・久保稲荷965-8448・東金子962-7711  
金子9636-1171・宮寺964-4466・二本木963-2672・藤沢962-6475・東藤沢962-6993・藤の台964-7353・西武963-0033

生涯学習アラカルト

第5回いるま生涯学習フェスティバルのお知らせ

〇と き……12月5日(日) 午前10時～午後3時30分
〇と ころ……入間市産業文化センター・図書館・児童センター・県営彩の森入間公園

〇テーマ……「協働」
〇主な内容

オープニングイベント/「福祉」「環境」に関するミニ講演会/「まちづくり」「教育」に関する公開ディスカッション/展示・実演・販売による生涯学習の成果発表/生涯学習エッセイ集「かがやくスペシャル第3号」発行(当日配付)/軽スポーツ、ミニオリエンテーリング/その他ご家族でぜひお越しください。詳しくは「広報いるま」11月15日号の折り込みチラシをご覧ください。



FMいるま(77.7MHz)「サンデーアラカルト」で生涯学習情報を!

〇毎週日曜日午前11時～12時

第1・3週……ふれあいサークルリポート

第2週……ふれあいきいきミュージック・生涯学習情報コーナー

第4週……ふれあいトークサロン

番組でお知らせする皆さんの身の回りの生涯学習情報を募集しています。

いつ・どこで・なにが学べるか —サークル・教室情報—

市民の会では教育委員会と協力して、入間市生涯学習サークル・教室一覧を作成しています。公民館や生涯学習課の窓口で、市内のいろいろな分野のサークル等をご紹介できるようになります。ご活用ください。

民間施設利用のサークル・教室については、まだ追加登録中です。登録ご希望の方は市民の会事務局までお問い合わせください。

「出前講座」を受け付けています

市教育委員会生涯学習課では、6月より「入間市生涯学習茶の都出前講座」を開始し、ご好評いただいています。これは、市民の皆様



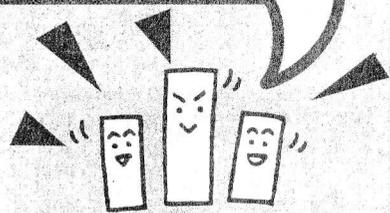
市職員を講師として派遣し、講座を開催する制度です。講座メニュー表や申込用紙は、公民館・支所等の公共施設に置いてありますので、どうぞお気軽にお申し込みください。お申し込み、お問い合わせは生涯学習課まで ☎042-964-1111 (内4123)

入間市生涯学習をすすめる市民の会では、こんなことをしています

入間市生涯学習をすすめる市民の会は、市とともに生涯学習を推進する市民ボランティアで構成された組織で、今年で5年目を迎えます。生涯学習フェスティバルの開催、学習情報の収集・提供、情報紙の企画編集などを、市職員や多くの市民の方々と協力して行い、市民の生涯学習活動を支援していきたいと考えています。皆様のご意見・ご要望をお聞かせください。



「いっしょに、みんなで」も、だれでも、うたが、合言葉の生涯学習です。



お問い合わせ・連絡先 ☎ 358-8511 入間市豊岡1-16-1 (市教育委員会生涯学習課内) 入間市生涯学習をすすめる市民の会事務局まで ☎042-964-1111 (内4123) ☎042-964-4841

編集スタッフ 池田静子・新宅かよ子・高木久子・永石珠江 長谷川正子・松崎仁子・山尾聖子・渡辺万千栄 (五十音順)

生涯学習情報紙 見つけてみませんか? あなたのしたいこと!

かがやく

第10号 平成12年3月

企画編集: 入間市生涯学習をすすめる市民の会 発行: 入間市教育委員会生涯学習課 〒358-8511 入間市豊岡1-16-1 TEL 042-964-1111 (内4123) FAX 042-964-4841

題字・ちぎり絵 加藤イチさん (84才)

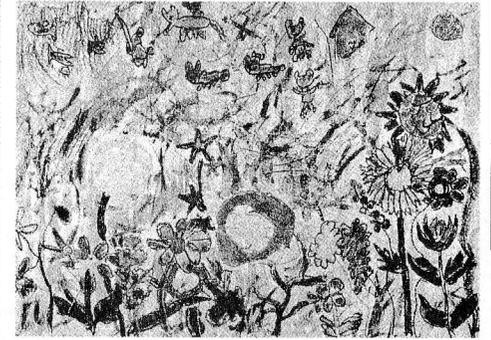
生涯学習とは?

生きがいのある充実した生活を送るために、生涯にわたって自由に楽しく学ぶことです。

原稿・学習の成果・作色などの紙面で発表しませんが、ご連絡を!



折り紙「鶴の花」 鈴木恵美子さん作・指導 (小谷田一丁目福寿会館・折り紙教室) この花のはなびらは、メンバー全員で折った折り鶴でできています。



絵画「花のある風景」向井裕亮君(小3)(入間市児童センター・絵画教室) 楽しい事を思い浮かべ、ありったけの色を使って描きました。

生涯学習ギャラリー

春～初夏の主な入間市生涯学習イベントカレンダー

Table with columns: 開催月日, イベント, 会場. Lists various events like '茶の都', 'アジアはひとつ', 'けんかつ出張講座', etc.

\*その他の催し物については「広報いるま」、6月上旬発行予定の「いるま生涯学習ガイドブック上半期編」(市内公共施設で配布)等をご参照ください。 \*各催し物のお問い合わせは、生涯学習課まで。

特集「続・生涯学習サークル」 2, 3面 「かがやく」取材班リポート △いろいろな場所で活動している皆さんを訪ねて▽ 入間市コース/クラリマー/どんぐり/そらぼん 4面 生涯学習スペース情報コーナー/生涯学習フェスティバル報告 入間市生涯学習をすすめる市民の会活動報告

### 「かがやく」取材班レポート

前号は、公民館で活動している生涯学習サークルをご紹介します。今号では、入間市内のいろいろな場所で活躍している「生涯学習人」を訪ねてのレポートをお届けします。

それぞれがユニークで魅力的。なにか始めたい方！それは、今かもしれませんよ。

心を歌う！

「入間台コーラス」

#### ●歌は言葉

「雪が解けて、春を迎える嬉しさですよ」と、一つひとつの言葉に情景を重ねていく指導を見て、取材班は感動しました。「いいですか、水の音が聞こえるように、こうですよ」と先生の朗々とした声で、教室に緊張が走ります。「そう、それですよ。しっかりとつかんでね、できるわね」先生のひとこと、コーラスは続きます。

#### ●言葉は心

週に一度、地域の自治会集会所で行われる練習は、二十五年近く、一度も休む事なく続けられているそうです。平均年齢ということでは、市内のコーラスグループの中では一番高いかと思われます。なにかすっきりと味わいのある響きを感じられます。



特に、一昨年の市民合唱祭で歌われた「落葉松(からまつ)」は、思い出を落葉松に降る雨に重ねて表現されているものでしたが、その歌声は深く伝わった。心打たれるものがありました。歌の心を大切に作る皆さんの思いが、音に溶け込み伝わってくる素敵なグループでした。

■毎週月曜日10時～12時 入間台自治会集会所

園になつて...

「クライマー」

#### ●マウンテンバイクに乗って

日曜日、朝七時頃、市役所付近に数十台のマウンテンバイクのクライマーが集まっているのを見かけたことはありませんか。このクライマー、近くは入間市内、遠くは目黒区からも来ているそうです。

それぞれのマウンテンバイクの調整が終わると、とりまじめの増子さんのかけ声とともに出発。今日の目的地は、加治丘陵。一般道路は一列に並んでいたのが、丘陵に入るやいなや思いのままに走行。マウンテンバイクの乗り方を、少しかいま見たよかったです。

●走った後は、少しお茶でもいっつも一時間半ぐらい走った後は、市役所近くのお店で一休み。ここでの会話はとても賑やか。みんな目を輝かせて、マウンテンバイクの情報の交換に忙しい。



#### ●幅広いメンバー

このサークル「クライマー」は、七年前くらい前、マウンテンバイクを持っていた人なら誰でも参加できる事を目的として始められました。メンバーを見ると、初心者から有資格者まで、小学二年生から六十歳までと、いろいろな意味で幅広いのです。しかし、マウンテンバイクという共通のものがあるためか、レベルや年齢の違い等は全然感じられませんでした。

もし、眠っているマウンテンバイクがあるようでしたら、一緒に走ってみてはいかがでしょうか。 ■毎週日曜日・入間市役所前7時集合・連絡先096212278(増子)

## 活動な場所で行っている皆さんを訪ねて

## 特集 続・生涯学習サークル いろいろ活動皆

### いまが旬

### 生涯学習でかがやいて

「入間市生涯学習をすすめる市民の会」が、「年齢に応じた学習を自由に楽しく！」をうたって発足してから、5年になりました。それぞれのテーマに、いろいろな方法で取り組んでいる人々の姿には、学び合い、人として育ち合うことのよさを感じられます。私には、その中で培われるものの大きな成果が「人間形成」であるように思えるのです。より多くの人々が、生涯学習活動を通じ、共に元気にかがやいていくことを願っています。

入間市生涯学習をすすめる市民の会・会長 松永輝義

はじまり、はじまり

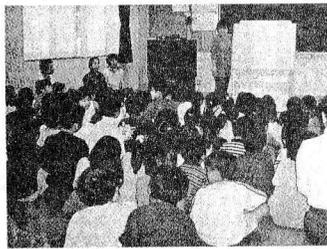
読み聞かせグループ 「はなぐり」

#### ●おはなしの嬉しさ

誰かに本を読んでもらったりおはなしをしてもらったりを思い出すことはありませんか？ 母親となつてからは子供に本を読んでもやることも楽しいものでしたが、そんな記憶もはや遠くなった今、久々におはなしを聞く機会に恵まれました。

#### ●読み聞かせのグループ

おはなしをしてくれたのは、ボランティアの読み聞かせグループ「はなぐり」の皆さん。十四年前、市の図書館開館の際、「子ども達と本の出会いのお手伝い」と結成された主婦を中心とする二十人のグループです。入間市、飯能市、日高市を舞台に、定期的に図書館や小学校で、そして依頼があれば子どもも老人ホームでも公演しています。また、月に一回は、語らや児童文学の勉強会を開いて力をつけています。



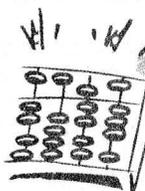
#### ●これからやってみたい人にも

昨年、図書館主催の「読み聞かせ養成講座」が開講され、「はなぐり」のメンバーの指導のもと、約四十名の受講者が集まりました。受講者の皆さんの「なぜ講座を？」の答えはそれぞれ違つていましたが、共通するものは、あの懐かしく楽しいおはなしを聞いた日々の体験でした。聞き手の心地よさと、話し手の喜びの中に、温かな人の心が伝わっていくのを感じられました。機会をみつめて読み聞かせを楽しんでみませんか。

■毎週火(十一時)金(十一時十六時)土(十四時)・入間市立図書館内「おはなしコーナー」 連絡先0962122582 (斉藤)

どっこい生きてる！

入間市のそろばん



#### ●おい！そろばん

現在小学校のそろばんの授業は、三、四年生で、たし算、ひき算といった基礎的な内容を学習します。

かつて庶民の計算道具の代表であったそろばんは、今どうなっているのでしょうか。

森田珠算塾 森田春生塾長によると、お父様が入間市でそばんの指導を始めたのが昭和二十五年。最盛期の生徒数は四百人を越えるほどでしたが、現在は、少子化や習い事などの多様な影響で生徒数は減っているとのことでした。

一方、入間市児童センターの入間市の子どもからトンガ王国の子どもたちへ文具用品を贈るキャンペーンでは、他の文具とともに「一挺もそろばん

んが集められました。そろばんは、海外でも評価されて国際交流にも一役かっているようです。

#### ●まだまだ健在！

そろばんを学ぶことで、計算力、集中力、記憶力が養われるといわれています。数を一瞬に映像(そろばん)としてイメージし、感覚的につかむことで、数字の読み取りが早く正確になるそうです。また、指と目と頭を使うことが、老化防止の面でも効果があります。

そろばんの検定試験には年齢制限も無く、学習成果が形になりやすいということで、これを目標とする人も見られます。電卓やコンピュータが主流となつても、そろばんは今も健在です。

### ●入間市生涯学習サークル・教室一覧 文化/芸術/生活編 「いるま学びの場」

いつ、どこで、なにが学べるかという入間市内の約1000のサークル・教室情報を集めました。主に市内の公共施設で配付しています。ご利用ください！現在も情報は収集中です。お問い合わせは0964-1111(内4123) 生涯学習課まで

生涯学習の成果発表の場を市内に探してみました。

### ■「入間市内の生涯学習スペース」ご案内&情報募集コーナー

マーク表示 ☆平面作品展示 ◇ステージ100席未満  
★立体作品展示 ◆ステージ100席以上

《公共施設の活用スペース》	
□産業文化センター ☆★◇◆	442席 ☎964-8377
□市民会館 会議室・展示室他 ☆★◇◆	1,086席 ☎964-2411
□博物館 ☆★	☎934-7711
□新しさを知る公園内 野外ステージ ◆ (無料)	128席 ☎964-1111 (市役所みどりの課)
□リサイクルプラザ ☆★ (無料)	☎934-5324 (ゴミ減量、リサイクルの内容に限る)

《民間施設の活用スペース》	
□ギャラリーこむ ☆★◇	25席 ☎964-2229 (小谷田)
□多夢楽 (東町) ☆★◇	30席 ☎964-7946
□ギャラリーエポック ☆★◇	35席 ☎965-8228 (東藤沢)
□西武ベベ ベベホール ☆★◇◆	120席 ☎966-0077 (河原町)
□遊布縫 (東町) ☆★	15席 ☎966-5161
□カルチャー&ギャラリー 初心舎 ☆★◇	15席 ☎966-7236 (東藤沢)
□胡桃 (上藤沢) ☆★◇	☎965-0582
□画廊喫茶 路路 ☆	☎962-5960 (下藤沢)
□あかり (上藤沢) ☆★	☎962-1170 (旧・難破船) W90×H120×D25cmの専用ケースに展示

◎このコーナーでは生涯学習活動に必要なスペースを探しています。教室、イベント、作品展示、公演等多彩に広がる活動を応援して下さる情報をお待ちしています！

※詳細は各連絡先にお問い合わせください。

### ■第5回いるま生涯学習フェスティバル開催6,000人の来場者！

去る12月5日(日)、産業文化センターを中心会場として、第5回いるま生涯学習フェスティバルが開催され、のべ6,000人の来場者で賑わいました。

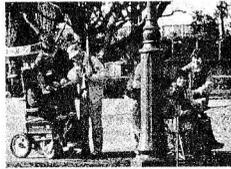
今回は、「協働」というテーマを掲げ「市民、企業、行政が、これからの入間をともに考えていこう」という主旨で展開されました。「福祉」「環境」をテーマにしたミニ講演会、「教育」「まちづくり」に関する公開ディスカッションや、各サークルの作品展示、販売、ステージ公演など、多彩なイベントとなりました。



●盛況なミニ講演会



●賑わう展示コーナー



●車椅子で参加できるトレイルオリエンテーリング

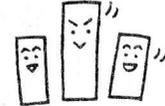
### ■入間市生涯学習をすすめる市民の会・平成11年度活動報告

入間市生涯学習をすすめる市民の会は、市とともに生涯学習を推進する市民ボランティア組織です。今年度も市民の生涯学習をバックアップするための様々な活動を行いました。

- FMいるま「サンデーアラカルト」への参加・協力 生涯学習サークルや情報紹介コーナーで、制作に参加
- 「いるま学びの場」平成11年度入間市生涯学習サークル・教室一覧」の発行
- 第5回いるま生涯学習フェスティバルの開催
- 市生涯学習推進組織との意見交換会
- 生涯学習情報紙「かがやく」年2回発行 他

■お問い合わせ・連絡先 ■ 〒358-8511 入間市豊岡1-16-1 (市教育委員会生涯学習課内)  
入間市生涯学習をすすめる市民の会事務局まで  
☎042-964-1111 (内4123)  
FAX042-964-4841

## 生涯学習アラカルト



それを思い出し、自分なりに磨いて、自分らしい人生づくりをしていきたいものです。

(長谷川)

●編集スタッフ 池田静子・新宅かよ子・高木久子・永石珠江  
長谷川正子・松崎仁子・山尾聖子(五十音順)

# 第5回 いるま 生涯学習フェスティバル

テーマ 協働

12月5日(日)  
10:00~15:30  
入間市産業文化センター  
児童センター・図書館  
県営彩の森入間公園

きて！  
みて！  
かんじて！

お問い合わせ いるま生涯学習フェスティバル実行委員会事務局  
入間市教育委員会生涯学習課内  
☎042-964-1111(内線4123)

共 催 入間市・入間市教育委員会、(財)入間市振興公社  
入間市生涯学習をすすめる市民の会

主 覧 いるま生涯学習フェスティバル実行委員会

協 力 入間ケーブルテレビ(株) エフエム入間放送(株)  
ドイト入間店 キノシタ楽器 NTT東日本埼玉支店  
日本生命保険相互会社所沢支社  
県立入間青年の家 狭山ヶ丘高等学校 東野高等学校  
狭河台大学 大妻女子大学 東京家政大学 城西大学  
入間市商工会 入間市観光協会 入間市茶業協会

テーマ「協働」



このフェスティバルは、みなさんの生涯にわたる学習活動を応援するイベントです。今年のテーマ「協働」は、市民・行政・企業がそれぞれの特色を活かしながら、ともにまちづくり、人づくりをしていこうというものです。私たちといっしょに考えてみませんか？

特別企画

オープニング (10:00~11:00 産業文化センターホール)

みんなで歌おう「入間市の歌」  
参加団体による「協働」リリーススピーチ

公開ディスカッション (申込み)

I 教育長を囲んで話してみませんか  
「子どもの「居場所」を考える」  
11:00~12:30 図書館3階研修室  
II 若者よ！市長と語りませんか  
「あなたが住みたい夢のまち」  
13:00~14:30 図書館3階研究室

ミニ講演会 (それぞれ定員80名 申込み)

I ~車椅子からの提言~  
「すべての人が豊かで元気であるために」  
講師：山崎泰広さん(パルセロナパラリンピック平泳ぎ入賞)  
11:00~12:30 図書館2階研修室  
高齢者と障害者が安心して暮らせるバリアフリー社会をめざして、ともに考えてみませんか。  
II 「地球にやさしい暮らしをするために」  
講師：吉村七郎さん(千葉大学教育学部講師)  
13:00~14:20 図書館2階研究室  
地球と仲良く暮らしていくための知恵と工夫について、誰にもわかりやすく、模型や器具を使って話していただきます。

かんきょう井戸端会議

14:30~15:30 図書館2階研修室  
入間の身近な自然や環境について、気軽に話しあってみませんか？

入間市の「協働」実践団体コーナー

環境、福祉、教育などのさまざまな分野で「協働」を実践している市民組織の活動を中心に紹介します。

生涯学習活動の発表

◎ステージイベント (産業文化センターホール)  
童謡、手話コーラス、民謡、大正琴、三曲、フラダンス  
オカリナ、ハーモニカ

◎見てみよう！体験しよう！ (産業文化センター)  
古切手貼り絵、入間写真サークル大集合、トールペイント  
陶芸、ちぎり絵、利き酒、ライフプラン設計、ガーデニング  
フライトインク(洋式毛筆)、インターネット体験  
骨髄バンク紹介、ラジオ製作、もちつき

◎親子でいっしょに！ (児童センター)  
おもちゃ作り、科学実験、布芝居、起震車体験  
リレーコンサート、音楽療法、絵本読み聞かせ、ミニSL

◎外で元気に！ (県営彩の森入間公園・児童センター)  
トレイル・オリエンテーリング(車椅子でも参加できます)  
軽スポーツ(シャフルボード、ペロック、パワーボーイ  
輪投げ等)

プラネタリウム作品特別上映 (児童センター)  
天文クラブの子どもたちが製作した作品を上映します。  
生涯学習書籍・大人も読みたい絵本コーナー (図書館)

私たちの広報紙自慢  
学校、職場、団体、個人で発行している広報紙を紹介します。  
あなたの作った広報紙も展示してみませんか？ (申込み)

入間クイズ  
会場を回って入間市に関するクイズに答えます。賞品もあります。

記念誌「かがやくSpecial」第3号発行  
学ぶことの楽しさや、学習活動を通じて得た友達のことなど、  
すばらしいエッセイを掲載！当日会場で無料配布します。

休憩コーナー (お茶を食べよう！他)

各種お申込み (11月26日まで) お問い合わせは

フェスティバル実行委員会事務局  
☎042-964-1111(内線4123)へ

生涯学習情報コーナー

施設の紹介や学習相談、生涯学習についての情報交換などを行うコーナーです。サークルのパンフレット、イベントのチラシなどもお預かりします。(展示希望者は申込み)

行政の取り組み

職員手作りの入間市ホームページ、加治丘陵里山計画など

フェスティバル  
タイムテーブル

	9:30	10:00	11:00	13:00	14:30	15:30
産業文化センター	受付！	オープニング	生涯学習活動の発表～ステージイベント～			
1・2階	生涯学習活動の発表～見てみよう！体験しよう！～		入間市の「協働」実践団体コーナー			
1階	生涯学習情報コーナー、休憩コーナー他		生涯学習書籍・大人も読みたい絵本コーナー			
2階	ミニ講演会I		ミニ講演会II		かんきょう井戸端会議	
3階	公開ディスカッションI		公開ディスカッションII			
児童センター	生涯学習活動の発表～親子でいっしょに！～					
	軽スポーツ、プラネタリウム特別上映、他					
	トレイル・オリエンテーリング (受付10:00~14:00)					

◇内容等変更の場合はご容赦ください。◇お車で越しの方は、市役所駐車場をご利用ください。  
◇「第5回いるま生涯学習フェスティバル」は「学び輝く彩の国県民運動」に協賛しています。

参加者一覧表

●ホール

No	参加者団体・個人名	No	参加者団体・個人名
1	入間市童謡連盟	8	フラダンス ・ブアニ・フラ・セイブ
2	狭山ヶ丘高校イタ・フクトリア		・アロハフラ
3	民謡連盟		・フラダンス同好会
4	大正琴		・ドゥーザ・フラ東藤沢
5	三曲連盟		・フラダンス レファ
6	オカリナサークル「こだま」		・フラ藤の台
7	ハーモニカサークル「アソビのうしろ」		・ブルメリア
			・フラダンス ルアナ

●実演・販売・展示

No	参加者団体・個人	代表者	No	参加者団体・個人	代表者
1	けやき作業所		18	駿河台大学	
2	花茶樹	関根	19	城西大学	
3	入間おやこ劇場	小沢 妙子	20	木曜毛針会	
4	パンフルート	神谷 芳雄	21	日本生命所沢支社	山中 英雄
5	N T T 東日本埼玉支店	滝澤 実春	22	写真サークル	
6	埼玉骨髄バンク推進連絡会		23	健康生きがいアドバイザー	
7	F M ・入間TV		24	三曲連盟 (楽器体験コーナー)	
8	児童センター無線クラブ		25	広報広聴課	
9	垂見 桑明		26	みどりの課	
10	トールペインティングサークル		27	公開講座日高ラブラブル企業運営委員会	
11	あまりりす (トールペイント)		28	入間市ボランティアセンター	
12	睦月の会 (ちぎり絵)		29	入間市手話の友の会	
13	埼玉県貯蓄広報委員会	下野 武司	30	入間六ツ星会	
14	県立入間青年の家		31	児童センターボランティア	
15	東野高校		32	男女共生セミナースタッフ	
16	大妻女子大学		33	国際交流協会	
17	東京家政大学		34	環境等協働実践団体	

●児童センター

1	ガールスカウト	徳永千代子	6	キノシタ楽器ヤマハ音楽文化センター	
2	入間おやこ劇場	小沢 妙子	7	起震車の体験	消防本部
3	ミュージックセラピーポコの会	望月 雅枝	8	科学実験コーナー	
4	中島 茂 (手づくりおひなさま)		9	カラフル 作品の制作上映	
5	おはなしだいすき		10	ミニSL	

●図書館棟、中庭、彩の森公園

1	本の紹介コーナー	図書館	5	環境課 (環境座談会)	
2	もちつき (森仲の会・金子おひな会、ジュニアグループ)		6	軽スポーツ	体育課
3	ドイト入間店 (おでん)		7	入間オリエンテーリングクラブ	田中 博
4	陶芸サークル「喜一窯」		8	入間遊び場づくり協会	大場 治

講師 吉村七郎氏 「地球にやさしい暮らしをするために」

講演会に出席されている方々に「あなたは科学は好きですか」と問いかけて挙手してもらうところから始まる。7割以上の方が苦手と答える。それを受けて「なぜ科学が苦手という人が多いか」と続く。

日本の科学者や関係機関に「どのようにしたら科学が面白い」といわれるための研究や取り組みが遅れているからであると科学への親近感を促す。

地球は循環型社会、リサイクル社会である。水も空気も同じである。

宇宙船の中では排泄物は船外へ宇宙ポータルとして出している。

人間や動物が吐き出す二酸化炭素を吸い込んでくれる植物や排泄物を分解してくれる微生物は循環型リサイクルの大事な要素である。

そこへ人間が入り込んできて公害といわれる廃棄物を捨て始めた。

新築のために解体された家はどこかに捨てられている。請負業者が森の中で燃やしていた。昔は木造だったので燃やしても灰になって植物の肥料になっていた。しかし新しい建材は燃やすとダイオキシンを発生するものが多くなってきた。

狭山市のクリーンセンターの炉は世界環境基準を達成している。世界の環境基準は80ナガムである。「ものは無くならない」何かの形で残る

配布した資料を使って

問題1「燃やす前と燃やした後の新聞の重さは？」について実験する

問：1.前と同じ、2.軽くなる、3.重くなるの中から予想してもらう

<<< 予想することで実験の楽しさが倍加することを交えて講演が進む >>>

答：「軽くなる」ではどのくらい軽くなるか 答：20~100分の1以下になる。

残る灰とは紙の中に入っていた金属などが酸素と化合した状態で高温で燃やすほど灰は白く少なくなる。だから「ゴミは燃やす」といった概念が定着してきた。

まだまだ新聞は「燃やすごみ」「燃えるごみ」と認識されている。

「ごみ」とは「資源」であるという考え方が大事です。

ところが近年、燃やすとやっかいなものが発生するものができた。

その小さくなった粒を1億倍に拡大すると粒の構造が見えてきます。

「水分子の1億倍模型」を配って解説される

中国では脱硫装置を使わないで重油を燃している。日本海側で酸性雨が多い理由がここにある。日本は中国に対して脱硫技術や設備を輸出したほうがよい。

窒素は空气中を単一元素として飛び回っている。したがって二酸化窒素( $\text{NO}_x$ )は自然には発生しないが高压高温でぶつかると発生する。これが窒素酸化物である。

セルロースを燃やすと水と二酸化炭素(炭酸ガス)になって空气中に飛び散っていくが発泡スチロールやプラスチックを燃やすと真っ黒い煤が部屋中に充満する。

水素と炭素が結合したベンゼン核が高密度に結合していくと最初はメタンガス、エタン、プロパン、ブタン(ここまでが気体)、つぎにガソリン、灯油(ここまでが液体)、ろうそく(ここで固体)と変化していく。このベンゼン核に塩素を結合させたものが塩化ビニールになりポリエチレンになりそしてプラスチックになっていく。

この塩素化合物を燃やすと極めて小さな猛毒の化合物が発生する。それがダイオキシンである。

ダイオキシンの学術名称は「ポリ・塩化・ジベンゾ・パラ・ジオキシン」です。

ではどんな原子でできているのか

ダイオキシンは炭素、水素、酸素、と塩素の4種類の元素からだけでできています。

ポリとは：沢山の意味 パラとは：対 ジとは：二つ

PCB(ポリ塩化ビフェニール)もダイオキシンの一種である。

燃えるごみにビニールやプラスチックが入っているとダイオキシンが発生する。

ダイオキシンは分解されることなく人体に蓄積されていく。人間はだれにも食われないから最後の濃縮先となる。

でも赤ちゃんに濃縮されたダイオキシンが移っていく

これが問題です。

(記録：柳橋吉教)

第5回いるま生涯学習フェスティバル風景



環境関係『協働』展示コーナー

講師 山崎泰広氏 車椅子からの提言「全ての人が心豊かで元気であるために」

スポーツのためにアメリカにホームステイをすることになり、アメフト、レスリング、ヨット、スキー、スキューバダイビングなどいろんなスポーツをやっていたが転落事故で脊髄を損傷してしまい下半身麻痺となってしまった。

医師から「車椅子になったからといって何もできないわけではない」という言葉に励まされた。そして障害者にもどんなことでもできることに気がつく。

アメリカでは車椅子の医師や政治家、技術者、クリエイターが沢山いることも知る。

アメリカでは障害者のリハビリに対して「できないことを自分で見つける」そのくらいなんでもできるという意識が一般化している。

セラピストから「あなたは何も変わっていない」という方法を使ったら目標を達成できるかを考えて「自分の目的に向かっていくこと」がリハビリの考え方であると教えられる。したがって目的がもてない人はリハビリが受けられない。

アメリカ社会には障害者バリアーという言葉自体が無い。アメリカの法律では障害者を考慮しない法律は通らない。

日本に帰ってきて一番ショックだったことは「まず障害者の視線」で見られることであった。「あなたは障害者なんだから」という意識が最初にある。そして日本は障害者にできることを教えない。障害を「その人の特徴として捉える」という考え方が重要である。

アメリカでは「次に障害者」の意識が常識である。

アメリカの障害者はみんな明るい、日本の障害者は暗い病院の中の隅で固まっている。日本の障害者は障害に対する病院や医師、セラピストの理解度で人生が変わってしまう。日本人像というのは「みんな同じでないといけない」という意識である。だから自分と違う人を疎外したり蔑視する。

あるとき駅のホームで困っていたときに走ってきて手を貸してくれたのは茶髪でヒッピーのような若者だった。彼らは自分たちが違うことをやっているという意識を持っているからみんなと同じでない人に優しくされる。

アメリカ人は「ヒーロー的でカッコいい」ことに意義を感じる人種である。

バルセロナパラリンピックに出場して

自分が「井の中の蛙」であったことを知った。

自分のこれまでの多種のスポーツ経験から競技について自信があったが、アメリカでは軽度の障害者は健常者と同じレベルである。

障害の軽い選手は健常者と競わなくてはならない。自分は重度の障害者でないとメダルは取れないと感じた。そのくらい障害者と健常者との差が無いということ。

車椅子について

車椅子とは日本では「患者運搬の道具」であり、それを操作する健常者の意識で捉えられている。アメリカでは「障害者の足」である。だから乗り心地や機能を第一にしている。アメリカでは朝起きたらすぐ車椅子に乗せる。一人ひとりにフィットした車椅子なので一日座っていても苦にならない。ここ産業文化センターホール脇のスロープの傾斜は自分なら登れるが普通の障害者は一人では登れない。「誰かが手を貸す」という前提で作られています。

近い将来、車椅子はスポーツの道具に代わっていく。そうなると健常者が車椅子に乗って競技に参加し競技が終わったら車椅子から降りるといったことも常識的になってくる。

アメリカ社会では「貴方に合った車椅子と環境を用意します。一人ですることは自分でやってください、その代わりお世話をする人が減りますよ」といった考え方。

バリアフリーという言葉について

まず、国内で開かれている各種審議会の中に障害者がいない。健常者の発想で考えられている。当事者の意見を聞くことが大切です。点字ブロックを敷いただけで満足している。この点字ブロックはどこに行くのか、どちらが男性トイレなのか誰も教えてくれない。障害者専用通路として用意して合っても鍵がかかっている。誰かを呼ばないと、そして手を貸してもらわないと使えないといったものが多い。車椅子専用のバリアフリーは健常者にとってのバリアになってしまうこともある。

日本にもユニバーサルデザイン（共用）の考え方が浸透し始めていますが、この環境においてもっとも基本的なこととして「健常者一人ひとりのモラルにかかっている」ということである。

アクセスフルになっているということは「人の手を借りなくてもよい」こと

自分の事業について

障害者向けの書籍の販売（並行輸入）で日本の障害者に提供したいと考えた。

障害者手帳でそういったものが手に入るようにしたい。

障害者向けのコンピュータを開発。オンとオフさえ入力できればコンピュータが使える。「マスコミを惹きつけよう」とする意識が大切であると思っている。日本ではパラリンピックの放映が無い（NHKでさえも）

介護保険について

「自立して何でもできること」を目的とすべきである。

「車椅子は悪い」という意識が強い。それは「五体満足に近づけること」が目的だから一人でできないことは悪いという意識になる。

介護保険の認定基準を作った人は車椅子のことを知らない。車椅子の機能を向上させれば一人でできることがたくさんあるのに車椅子に乗っていることだけで障害者として判断している。

障害者の責任と義務について

障害者であっても義務と責任はついて回る。障害者だからということで責任を追求されないといったことはない。

たとえば駐車場の義務と罰則の適用について明確な判断基準がない。罰もしないし、どのように対応すればよいのか担当者にも判断できない。

どれだけお伝えできたか分かりませんが時間が来てしまいました。私の話で少しでも障害者と健常者とが豊かに生きていける社会につながっていければ幸いです。

今日はどうもありがとうございました。

(記録：柳橋吉教)

第5回いるま生涯学習フェスティバル風景



「子どもの居場所を考える」

発言者（関心のある事柄等）

- ・女性 登下校の子どもたちの居場所の問題
- ・男性 子どもの体験不足 日本をまかしていける子ども
- ・男性 地域とのかかわり 学校としてどう関わっていけるのか
- ・女性 在日中国人の教育研究 美術教育  
子どもの居場所と親の居場所
- ・女性 入間おやこ劇場 子どもの体験不足
- ・男性 2児の父、高倉小「おやじの会」  
学校行事を日曜日にしてほしい？
- ・男性 「金子おやじの会」 学校・地域・家庭の融合  
子どもを一般の人が教育する 人間関係を作っていく
- ・女性 「人形劇」 地域にも子どもの居場所を。  
「遊ぶ」ことが少ない。
- ・男性 高倉小PTA会長 物理的居場所

発言内容

- ・子どもはかけがえのない存在。家庭のあり方…家庭の機能の回復（教育長）
- ・心が弱くなっている？実際に悪くなっているのか？（男性）
- ・いじめのこと。ゆずりあい。親の意識—子どもをおこらない、しからない（女性）
- ・大人の遠慮がいけないのでは。（男性）
- ・「自分の子だけ！」という親が多い。地域の中で子どもを育てていかなければ。  
(女性)
- ・世の中が速く変わっている。子どもはそんなに変わっていないのでは。（女性）
- ・知識が生活と密着していない。社会性が欠けている。（女性）
- ・親の意識の変化。（教育長）
- ・（家庭の教育を保証するように）企業も変わっていかなければならない。  
教育の私事化。今までとは違う教育のしくみが大切。（コメンテーター）
- ・商店街を復活させよう。→地域の人のほたらき  
子どもの居場所は大人が作っていかなければ。（男性）
- ・先生も土日は地域にもどっては。（女性）
- ・大人の方にも「ダメなものはダメ」と言い切れない人が増えている。

(司会：松永輝義 コメンテーター：山本和人 記録：曾根直行)

「あなたが住みたい夢のまち」

●日 時：平成11年12月5日（日） 13：00～14：30

●場 所：入間市図書館 3階 研究室

●参加者：13人

①入間市長

②市民－市内在住の若者12名

●司 会

・庄 菊博

●概要（参加者の自己紹介と意見等）－♠：男性 ♡：女性

序. 自己紹介

・庄 菊博：入間市生まれの入間市育ち。今後も入間市に住むつもり。

・木下 博：豊岡町就職。公務員生活42年後、助役を最後に平成4年入間市長に就任。「市民と行政は近い関係にあるべきだ」をモットーに市民の人たちとまちづくりをしていきたい。

♠：狭山ヶ丘学園スイミングスクール・インストラクター。入間市在住15年。

♡：大学教育学部在学中。「歴史」を勉強。夏休みに広報広聴課の企画で広島に行って「平和」について考えるようになった。

♠：狭山茶の生産をしている。昨年も参加をした。いろいろな意見が聞きたい。

♡：家業の花屋に勤務。大学では教員志望で免許も取得。教育について話したい。

♠：父の経営する自動車修理販売業と一緒にやっている。

♡：狭山の老人保険施設勤務。老人の介護をしている。

♠：去年、大学を卒業。東松山の中学校で臨時採用の教員をしている。

♠：大学4年。今年から市制モニターに参加。大学ではリサイクル研究室で勉強しているのがきっかけで市民活動に興味を持つようになった。

♡：入間市に住んで10年ちょっと。姉妹都市の交流会の関係でまちと関わるようになり、最近もAETのホームステイをした。

♠：入間市には住んで19年。県警に内定。もっと行政や公務員について知るため参加した。

♡：越生町で小学校の先生をしている。入間市では青少年相談員を10年している。

◆進行について

事前のアンケートから「教育」、「福祉」、「産業」、「まちづくり」といったテーマを選択し、時間があればフロアからも発言をいただく。

2. 福 祉

♡：車イスにのったきっかけは、広島に行ったから。外国の人もいたのが、一言も話ができなかった。これは「外国人とは話もできない」という先入観があったからだと思った。

先入観を捨てるため、車イスにのってみて気づいたのは、当初、人目が気になること。まるで「見せ物」といった感じがした。ほかには、学内だったのだが歩道がないこと。また、教室のドアが思いのほか重くて開けにくいこともわかった。「五体不満足」の乙武さんに会いたかったのだが、「見せ物を見る」という感覚で障害者を見ていたのかと思った。

♡：うちの施設の場合、入居型で内部ではだいたい問題なく過ごせるようになっている。でも、外出しようと思うと、行った先で問題が生ずる。たとえば、パチンコに行きたいと思っても、椅子は固定式、トイレはない、出入口には段差がある。外出先がもっと整備されるんじゃないかなと思う。

♡：老人保健施設は、病院と家との間で「リハビリをする場」ととらえられている。施設を出て家を帰ってしまうと外出の場合、道は車椅子にとって狭いし、スーパーの通路も狭くて不安が生じる。

庄：バリアフリーには施設等のハードの側面と、障害者に接する時等の精神面のソフトの側面があると思う。

♠：高校2年のときに靱帯を切って車イス生活をして「こわかった」と思った。ボタン式の横断歩道を利用してはすぐ変わってしまうし、電車やデパートのエレベーターを利用するときも早く動かなくてはという意識が働く。また道幅が狭くて車に当てられた。

市長：道路については「人にやさしいまちづくり」要綱を制定して努力しているのだが、用地取得がなかなかできないという状況がある。これは、説明も足りないかもしれないが、障害者問題への理解が足りないのではないかと考えている。

できれば、先進国のように一から十まで手を貸すということではなく、何気ない行動でフォローするスマートさかが望ましいと考える。

ただ、駅や三角橋に設置したエレベーターにしても「設置して何に利用するのか」という声もある。障害者がそういった施設を利用することが真のバリアフリー、障害者のためのまちづくりにつながるのではないかなと思う。

♠：車は車イスで乗り降りしやすいものが出てきた。車は、外出するのに最も便利な乗り物だと思うので、生かされるといいと思う。

♠：うちの校舎は、高層ビルだが、上下移動等に配慮がされている。

♡：午前中、講演者の方が、駅に付けられた車イス用のスロープに「2度どのりたくない」という話でした嫌そうな顔が印象的だった。本当に障害者が望んだ形で設置されているのだろうか。

## 1. 教育

- △：水泳部の活動を見ていると、先生がついていないと動きがとれず大会にも出場できない。
- 少年化でラグビーも一校ではチームを組むが難しいという話もある。
- こういった場合に、複数の学校でチームを作るといえることができるか。
- ♡：子供の期待にこたえてあげられないというのは大きな問題だと思う。
- たとえば、水泳は温度の問題等で「4回」程度しか入れずその間で泳げない人は泳げないままで終わってしまう。
- △：先生というのは忙しい。
- うちは生徒が200人、教師は19人いる。その教師のなかに「主任」がいるのだが、何かにつけて出張や研究会があって、学校には人が半分しかいないということもある。その一方で親からの要望が何かと寄せられ、こたえるのが大変である。
- 例えば「水泳」はスイミング・スクールに支援してもらおうとか、地域の活動とリンクしつつ、学校という「ハコ」を皆で支えるという形が望ましいと思う。
- ♡：市民の方からも学校に積極的に関わるといいと思う。
- 「空き教室をカルチャースクールに使っている」とか「子供達が遊びに来ている」という話を聞くが、子供たちより少し上の年齢層の市民が働きかけつつ、学校に受け入れてもらえるといい。
- 市長：確かに教育制度は基本的に考え直す時期に来ている。
- 中国では子供が自ら6時頃に学校に来て8時、9時まで勉強をしている。低学年の子供は、多くの人と接することも大切なので、意味があると思う。
- いまでは、学校の方でも考え方が変わってきて、「学童保育室は福祉のもの」という発想を改めてきているし、社会人の体育指導員も受け入れてくれるようになってきた。
- △：保育所の園児たちにサツマイモを掘らせてあげている。やってみて、「土と触れる場をつくってあげないといけない」という話も出ている。しかし、お茶畑の方は広いようにみえても、20年前の1/2ほどの面積になってしまっているほか、後継者の問題もある。
- ♡：「何がどこからくるの」というテーマで5～6人の班が見学に来たことがある。
- 希望があれば、市場から花屋にいたるまでの過程を見学してもらってもいいのだが打診がない。
- 市長：新久小では手揉み茶の体験学習をしていて、私もおいしいお茶を御馳走になったことがある。職場訪問も中学生で5～6人を単位に是非来てほしいという申し出がある。
- ♡：来年から2年をかけ、「総合科」が新設される。これは、年間1つのテーマで勉強するもので、各人が自主的に調べ、まとめあげる内容で時間もかかるし、不安もあるのだが学校と地域の相互の働きかけができてくるのではないかと期待ができると思う。

- 市長：コミュニケーションの問題だと思う。もっと会話をしたらいいと思う。
- ♡：「所詮は、マナーの問題だ」という話が講演で出ていた。
- 市長：先生方は車イスの生徒さんを階段で支えたり、学校によっては、自動の昇降機を設置しているような話を聞いたように思う。そういう姿が、他の子供たちの学ぶところにもなる。
- △：うちは「健康増進施設」ということで施設の整備には取り組んでいる。ただ、あまりに万全にしようとする、例えば「土足厳禁」がシビアになったりして、裏目に出ることがある。
- △：私が通った公務員養成の専門学校は、エレベーターに乗ると停学になるといった調子で、障害者の人は資格が取れないコースということもあって、配慮してはいなかった。
- 市長：障害者の人の雇用率を確保するように配慮をしている。

## 3. 産業

- 庄：都市化が押し寄せる今の状況で農業をやっているというのは厳しいだろうか。
- △：狭山茶は、個人経営が主体で、若い経営者も多いのだが、将来を心配する声も多い。農地の確保も心配などところである。宣伝ならできるといって、ダイオキシンの問題について埼玉県茶業青年団で銀座で2日間宣伝活動をした。
- 市長：狭山茶は、味と高級感で売りたいという考えがあり、それ以外の飲料等の製品化は裏目に出るといって危惧を持っている。
- お茶はガンの特効薬になるという点について、茶業試験場でも注目しているし、岐阜医大等では臨床に入っている。そういう面で需要の拡大を図りたい。
- 庄：地場産業の発展について、どういう考えを持っているのだろうか。
- 市長：「文化創造アトリエ」という施設を作ることになっているのだが、体験学習も折り込んだテーマで、ガラス製造から繊維産業、お茶、そしてアリュートへといったツアーをコース化する研究をしている。
- △：地域で産業が循環しているところが活気があるように思う。今後は「地元のものを使う」、「お金が地域で回る」という発想が大切なのではないだろうか。
- △：最終的には「ハート」のつながりが大事なのではないかと思う。顔見知りどうし助け合っていく、心のつながりということを大切にしたい。そのうえで商売ができればいい。
- 市長：商店街が大型店舗に対抗するのは実際にはなかなか難しい。調和の問題がある入間市駅周辺の活性化が入間市全体の活性化につながると考え、再開発事業をしている。現在「シネマコンプレックス9」という2千人収容、9スクリーンの映画館主体の商業ビルを建設中なのだが、若い人が入間に来て、回遊をして、地場にお金を落とすという形に期待する。

#### 4. まちづくり

△：自分が市民活動に参加した経験から「まちづくり」というテーマを考えた場合、もっと10代の子供を持った親を取り込むことを考えた方がいい。そういった人たちが、地域に目が向いていないという気がする。市民も行政批判というよりも行政の意見を聞くという姿勢がこれからは大切だと思う。たとえば、ゴミ問題では市民の側は生ゴミを減らせばいい、という意見になりがちだが、清掃工場の意見を聞くと、生ゴミを減らすなら燃料となるプラスチックも減らさないといけないという意見が出てくる。そういった風に互いの意見を出し合う中で問題の解決を考えていくというのが望ましい。

そういう意味では、日野市で出ていた「行政は緊張感と信頼感があればいい」という言葉が行政と市民のパートナーシップとして理想だと思う

市長：その言葉には私も賛成だ。反対のためではなく解決のための議論が望ましい。ゴミ対策については、粗大ゴミの有料化や分別も当初は批判もあったが、理解をきていただいているように思う。

さらに、現在、プラスチックの処理は減容施設で固形化して埋め立てているが、処分場の延命化、地下水の汚染等の観点から別の処理ができないかという研究をしている。

たとえば高度焼却施設を備えた民間の施設、セメント工場等で燃料として使い、ダイオキシンを一切出さないということはできないかと検討している。

ゴミ問題について市民の良識を讀みたいのは、クリーンセンターを設置したとき市民の方々と処理配分をクリーンセンターで60%、宮寺で40%という約束をしたのだが、宮寺の方を閉鎖することになり、説明をさせていただいたところ、もめてしがるべきところをご理解いただいた。また、所沢の清掃事業所が故障をして、そのゴミを受け入れたときには操業時間16時間を話し合いで18時間に延長させていただいた。今後とも市民の方との話し合いを大切にしていきたいと思う。

#### フロアから

♡：地域で子供が生き生きとできることを願って活動をしている。「やってほしい」と思うことと「やりたい」と考えていることをコーディネートし、ネットワーク化する力がほしいのだが、市民にはなかなか及ばない。これを行政に希望したい。

△：ケーブルテレビとFMチャッピーの副社長をしている。どちらも町なかのコミュニケーションをよくしてのしいまちづくりにいかそうと始めた。平成12年中には市全体にケーブルが敷設できる予定で第1種電気通信事業者としてインターネットも安くやってみたい。これにより、市民と市のコミュニケーションがしやすい場が提供できるのではないかと期待しているがその利用については、市民の方に工夫してほしい。そのためにも、大勢のかたに使ってほしい。

庄：「市民の会」のスタッフの机を庁内に置いたという話を聞いているのだが。

市長：日常的に職員と市民の方が接する場として提供をしたが、まだ形ばかりのことである。コーディネーターの件はなかなか難しい。たとえば、HOYAが毎年行っている「ガラスまつり」はいい催しなのだが、PRができない。ふれあい朝市ならば続けることができる、ということで形によって行政ができるものがある。今後は子供のことを中心とした取り組みで行政がお役にたてれば皆さんの活動を支援していきたい。

△：住宅を作る仕事をしている。気がつくのは、施主が無知なこと。ドライバー1本使えないから、何か起きると業者を呼ぶ、すると人件費がかかる。こういった、生活の知恵といったことから教えるのが教育ではないだろうか。アメリカでは、ボーイスカウトで教えている。こうしたことがわからないから、家を建てるのに営業に法外な要求をされることにもなるし全てを任せきりにするしかない。また、転入してくる人も地元とかみあってこないということにもなってくるのだと思う。

♡：今は、家庭料はあるけれども、知識しか教えていない。

♡：夫の仕事の都合で、子供とイギリスに住んでいたことがある。父母が自発的にボランティアで学校に出ていき、先生の手伝いをするという形で地域との間につながりがあった。私も日本のお菓子や料理を作ったりしたが、日本では学校が受け入れてくれないのではないだろうか。

△：介護も介護保険の開始により、有資格者でない介護できないといった雰囲気ができ、ボランティアが出ていきにくくなるのではないかと心配がある。

庄：ボランティアの登録制度を考えている。秘密を守りながら、登録を管理し紹介していく。登録の際は国家資格等だけでなく、「公民館で『〇〇』の講座を受けた」という資格を条件とするといいだろう。利用する人の方では頼む相手のレベルが気になるだろうから資格や講習を受けた履歴について情報を提供すれば、能力の判定もできるだろう。

市長：現在、福祉関係では、ボランティアセンターに500人の登録があるが、時間帯等の点でユーザーの満足を得るかといったニーズとの対応が難しい。

庄：必要に応じて配分していく何らかのパイプを作る必要があると思う。

市長：ボランティアの場合、「事故が起きたら責任はどうする」といった懸念が二の足を踏ませるという傾向がある。利用する側も、もう少しおおらかになれないものかと思う。

庄：さきほどの「信頼と緊張」という関係が大切だろうし、英国の例の「コミュニティーが子供を育てる」ということも考えることでしょね。

(記録：梶原政憲)



公開ディスカッション『あなたが住みたい夢のまち』



テーマ「協働」について1分間スピーチ

- 1 推進体制の整備に関する事業
  - ・ 市側の推進組織及び生涯学習関係団体との意見交換の実施
  - ・ 委員相互及び行政職員との共通理解を図るための研修会等の実施
  - ・ 今後の生涯学習推進体制についての研究
- 2 生涯学習の普及・奨励に関する事業
  - ・ 生涯学習を普及・奨励するためのFMラジオCM等の制作・放送
- 3 学習情報の提供、学習相談体制の整備に関する事業
  - ・ 生涯学習情報紙「かがやく」の編集・発行
  - ・ 生涯学習ガイドブックについての提言
  - ・ 市内生涯学習サークル・教室情報の収集、冊子「いるま学びの場」発行等による情報提供
  - ・ これらにともなう関係機関、市民団体等との積極的な意見交換の実施
- 4 生涯学習の推進に関する事業（関係機関、団体との連携による）
  - ・ 生涯学習フェスティバルの開催
  - ・ 生涯学習関係機関、団体が行う事業への協力・支援
- 5 生涯学習に関する調査・研究
  - ・ 市民の生涯学習に対する意識を調査するための体制・方法等の研究
  - ・ 地域と学校との連携

2000年度入間市生涯学習をすすめる市民の会委員名簿

○ 委員

(2000年4月現在)

氏名	活動分野等
秋葉 英夫	生涯学習愛好家
栗原 良子	東野高校講師(現代詩)
下野 武司	城西大学経済学部教授、日本山岳会会員、経済、生活マネジメント
杉山 若江	公務員 SLHの会
鈴木 豊士	入間ケーブルテレビ・FM入間副社長
曾根 直行	入間遊び場協会
田中 澄子	児童センター「おはなしだいすき」ボランティア 珠算検定試験委員
塚田とも子	詩吟教授 健康生きがいアドバイザー
並本 寿紘	会社員 日本テニス協会公認指導員
西久保夏代	入間市青少年相談員
増岡 達也	グラフィックデザイナー
松崎 仁子	環境
松永 輝義	幼児教育 家庭教育
三浦はるみ	入間おやこ劇場代表 埼玉県子ども劇場おやこ劇場連絡協議会副代表
室山 茂子	画家
森田美那子	入間台リサイクルグループ代表 区長会地域役員
柳橋 吉教	山歩き「木の芽会会員」 データベースSYS開発 ギター教室指導
山尾 聖子	杉野女子大学講師(フランス語) 二八落語会主宰

○ 協力委員

鍛治 信雄	会社員
庄 菊博	専修大学教授
山本 和人	東京家政大学教授
石川 経造	老人会(はなみずき会)会長
清水 薫	都市計画コンサルタント
関根 栄一	会社役員 入間茶まつり実行委員長
三木 清始	会社員 体育指導員 入間市社交ダンス連合会長
高木 久子	ミニコミ紙発行
長谷川正子	スペイン語会議通訳・翻訳

○事務局

須田 茂	入間市教育委員会生涯学習部生涯学習課主幹
吉川 秀夫	主査
今井 文香	主任

第5回いるま生涯学習フェスティバル風景

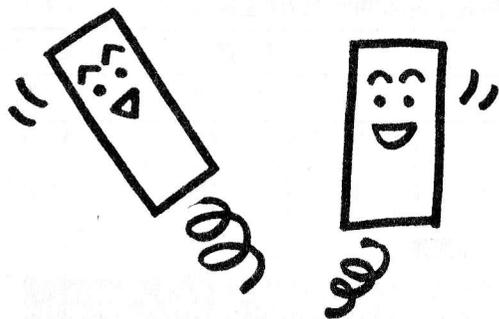


市内のフラダンスサークルが初めて集合

## 編集後記

☆毎年、寒い時期に、はやばやと原稿をくださる奇特なS様。今年も夏の暑さとともに会報をお届けすることになりました。ごめんなさい。相手によって、原稿取り立てを甘くしている！？つもりはないのですが... (山①)

☆生涯学習をすすめる市民の会のお仕事のお手伝いを始めて、早一年。「いるま学びの場」編集、生涯学習フェスティバル、そして、この会報編集と、少しですが関わって、改めてとってもいいことをしているなあと思いました。なぜ、もっと広がらないのかな... 会報の中には、熱い思いや問題が投げかけられています。皆さんもぜひ、生涯学習を考えてみてください。 (山②)



ピープル VOL.3 1999

2000年 7月

編集・発行 入間市生涯学習をすすめる市民の会  
埼玉県入間市豊岡 1-16-1  
入間市教育委員会生涯学習課内